官報號外　大正九年七月十五日　木曜日　印刷局

官報　號外

第四十三回帝國議會　衆議院議事速記錄第十一號

大正九年七月十四日（水曜日）午後一時十三分開議

議事日程　第十號　大正九年七月十四日

午後一時開議

第一　現受恩給者ノ恩給等ノ增額ニ關スル法律案（政府提出）　第一讀會

第二　右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選擧

第三　軍人恩給等ノ增額ニ關スル法律案（政府提出）　第一讀會

第四　右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選擧

第五　大正五年法律第四號中改正法律案（政府提出）　第一讀會

第六　右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選擧

第七　朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案（政府提出）　第一讀會

第八　右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選擧

第九　銀行條例中改正法律案（政府提出）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第十　貯蓄銀行條例中改正法律案（政府提出）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第十一　日本勸業銀行法中改正法律案（政府提出）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第十二　農工銀行法中改正法律案（政府提出）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第十三　北海道拓殖銀行法中改正法律案（政府提出）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第十四　日本興業銀行法中改正法律案（政府提出）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第十五　治安警察法中改正法律案（清瀨一郎君外三名提出）　第一讀會

第十六　軍人恩給法中改正法律案（近藤遠見君外一名提出）　第一讀會

第十七　重要物產同業組合法中改正法律案（土井權大君外一名提出）　第一讀會

第十八　產業組合法中改正法律案（土井權大君外一名提出）　第一讀會

第十九　非役壯丁稅法案（荒川五郎君外三名提出）　第一讀會

第二十　著作權法中改正法律案（鳩山一郎君提出）　第一讀會

第二十一　刑法中改正法律案（宮古啓三郎君外五名提出）　第一讀會

第二十二　葉煙草罹災補償ニ關スル建議案（萩亮君外四名提出）

第二十三　國都鐵道建設ニ關スル建議案（日野辰次君外三名提出）

第二十四　隈森宇鐵道建設ニ關スル建議案（一宮房治郎君外二名提出）

第二十五　日南東部鐵道建設ニ關スル建議案（長峰與一君外三名提出）

第二十六　福山三次間輕便鐵道速成ニ關スル建議案（永屋茂君外三名提出）

第二十七　敦賀港擴張ニ關スル建議案（河崎清君外七名提出）

第二十八　勝倉鐵道速成ニ關スル建議案（福井三郎君外四名提出）

第二十九　姫津鐵道速成ニ關スル建議案（福井三郎君外六名提出）

第三十　流行性感冒症豫防法研究機關設置ニ關スル建議案（松下禎二君提出）

第三十一　小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案（高田耘平君外八名提出）

○議長（奧繁三郎君）　諸般ノ報告ヲ致シマス

（原田書記官朗讀）

一今十四日政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

國債整理基金特別會計法中改正法律案

家祿賞典祿處分法施行法中改正法律案

鐵道國有法中改正法律案

京釜鐵道買收法中改正法律案

貨幣法中改正法律案

賠償金特別會計法案

明治三十八年法律第十七號中改正法律案

關稅法中改正法律案

明治四十三年勅令第三百三十一號等ノ廢止ニ關スル法律案

關稅法關稅定率法保稅倉庫法及假置場法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル法律案

內地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅免除ニ關スル法律案

朝鮮又ハ臺灣ヨリ移出シタル物品ノ內地又ハ樺太ニ於ケル取締ニ關スル法律案

戰地海上再保險法廢止法律案

獸疫豫防法ニ依リ下付スル手當金ニ關スル法律案

成田鐵道及中越鐵道買收ニ關スル法律案

一昨十三日議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

參酒稅法中改正法律案

提出者　中西六三郎君　伊藤廣綾君　木下成太郎君　大久保虎吉君　東武君　岡田伊太郎君　黑住成章君　松實喜代太君　栗林五朔君

植民省設置ニ關スル建議案

提出者　押川方義君

石油政策樹立並國內油田ノ開發ニ關スル建議案

提出者　坂本素魯哉君

帝國在鄉軍人會國庫補助ニ關スル建議案

提出者　八田宗吉君　一宮房治郎君　石川玄三君

燃料調查會設立ニ關スル建議案

提出者　高野毅君

五條新宮間鐵道建設ニ關スル建議案

提出者　玉置良直君　山口熊野君　東武君　磯田彖三郎君　松實喜代太君　加藤久米四郎君

島根縣斐伊川治水工事速成ニ關スル建議案
提出者　原夫次郎君　島田俊雄君
佐野正雄君　原田民之助君
若林德懋君　櫻內幸雄君

一今十四日議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
軍人恩給法中改正法律案
提出者　高木正年君　三浦得一郎君
齋藤宇一郎君
東京市特別市制ニ關スル建議案
提出者　鳩山一郎君　鈴木梅四郎君
林田龜太郎君　橫山勝太郎君
關直彥君　近藤達兒君
太田信治郎君　宮崎三之助君
賴母木桂吉君　佐々木安五郎君
高橋義信君　古島一雄君
作間耕逸君　三木武吉君
秋虎太郎君　安藤正純君

一昨十三日議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ
茨城縣ニ於ケル人權蹂躪ニ關スル質問主意書
提出者　橫山勝太郎君　鈴木富士彌君
大津淳一郎君

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ揭載ス〕

一昨十三日大正四年法律第十六號中收正法律案委員吉村鐵之助君辭任ニ付其ノ補闕トシテ山邑太三郎君ヲ議長ニ於テ選定セリ

一今十四日鐵道敷設法中改正法律案委員小池仁郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ平出喜三郎君ヲ議長ニ於テ選定セリ

一昨十三日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
明治四十一年法律第三十七號中改正法律案
中倉万次郎君　內山安兵衛君　三枝彥太郎君
高橋長七郎君　西澤定吉君　丸山嵯峨一郎君
野村勘左衛門君　齋藤鷲太郎君　樋口伊之助君
岩切重雄君　大林森次郎君　齋藤宇一郎君
高田耘平君　小野重行君　內藤濱治君
石川長右衛門君　福地錢吉君　上田彌兵衛君
關稅定率法中改正法律案
指田義雄君　鈴木錠藏君　原田佐之治君
永屋茂君　鶴見孝太郎君　野村治三郎君
武田德三郎君　柳原九兵衛君　北井波治目君
竹上藤次郎君　津崎尙武君　武藤金吉君
紫安新九郎君　田中武雄君　手島錬司君
金澤安之助君　村田虎之助君　守屋松之助君
國債償還資金ノ繰入ヲ爲ササルコトニ關スル法律案外七件
井上角五郎君　山崎猛君　小鹽八郎右衛門君
原田藤次郎君　野呂駁三君　大島實太郎君
清瀨規矩雄君　大石大君　仲田德三君
青柳郁次郎君　廣瀨鎭之君　早速整爾君
正木照藏君　鵜澤宇八君　一柳仲次郎君
吉田磯吉君　小橋藻三衛君　荻田悅造君
帝國大學特別會計法中改正法律案外二件
坪田十郎君　吉野小一郎君　西川嘉門君
白井博之君　神田重義君　聽田壽三郎君
山田永俊君　久下豐忠君　若林德懋君
海原清平君　禱苗代君　上塚司君
大津淳一郎君　龍口了信君　森達三君
中島興丸君　近藤達兒君　松下禎二君

○議長（奧繁三郎君）是ヨリ會議ヲ開キマス、大正四年法律第十六號中改正法律案ノ委員會ヲ開キタイトノ申出ハ、委員長菅原傳君ヨリアリマシタ、許可致シマス、日程第一第三ハ便宜上一括シテ議題ニ供スル考デアリマス、御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（奧繁三郎君）御異議ナイト認メマス、仍テ第一第三ヲ一括シテ議題ト致シマス、其第一讀會ヲ開キマス

第一　現受恩給者ノ恩給等ノ增額ニ關スル法律案（政府提出）　第一讀會

現受恩給者ノ恩給等ノ增額ニ關スル法律案

第一條　大正九年三月三十一日現在ニ於テ軍人恩給ヲ除クノ外國庫ヨリ恩給、退隱料又ハ扶助料ヲ受クヘキ者ノ恩給、退隱料又扶助料ノ年額ハ左ノ區分ニ依ル

一　增加恩給又ハ增加退隱料
勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年額ニ其ノ十割以內ノ金額ヲ加ヘタルモノ

二　前號ニ揭クルモノヲ除キタル恩給又ハ退隱料ニシテ年額千九百圓未滿ノモノ

甲　年額七十五圓ヲ超エサルモノ
其ノ年額ニ其ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額

乙　年額七十五圓ヲ超エ三百圓ヲ超エサルモノ
其ノ年額ニ其ノ三分ノ一ニ相當スル金額及二十五圓ヲ加ヘタル額

丙　年額三百圓ヲ超エ七百五十圓ヲ超エサルモノ
其ノ年額ニ其ノ十分ノ三ニ相當スル金額及三十五圓ヲ加ヘタル額

丁　年額七百五十圓ヲ超エ千四百四十圓ヲ超エサルモノ
其ノ年額ニ二百六十圓ヲ加ヘタル額

戊　年額千四百四十圓ヲ超エ千六百圓ヲ超エサルモノ
其ノ年額ニ其ノ年額ト千七百圓トノ差額ヲ加ヘタル額

己　年額千六百圓ヲ超ユルモノ
其ノ年額ニ百圓ヲ加ヘタル額但シ年額千九百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

三　扶助料ニシテ年額六百四十圓未滿ノモノ

甲　年額二十五圓ヲ超エサルモノ
其ノ年額ニ其ノ三分ノ二ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額

乙　年額二十五圓ヲ超エ百圓ヲ超エサルモノ
其ノ年額ニ其ノ百分ノ三十四ニ相當スル金額及八圓ヲ加ヘタル額

丙　年額百圓ヲ超エ二百五十圓ヲ超エサルモノ
其ノ年額ニ其ノ十分ノ三ニ相當スル金額及十二圓ヲ加ヘタル額

丁　年額二百五十圓ヲ超エ四百八十圓ヲ超エサルモノ
其ノ年額ニ八十七圓ヲ加ヘタル額

戊　年額四百八十圓ヲ超エ五百三十三圓ヲ超エサルモノ
其ノ年額ニ其ノ年額ト五百六十七圓トノ差額ヲ加ヘタル額

己　年額五百三十三圓ヲ超ユルモノ
其ノ年額ニ三十四圓ヲ加エタル額但シ年額六百四十四圓ヲ超ユルコトヲ得ス

增加恩給若ハ增加退隱料ヲ受クル者ノ遺族又ハ公

務ノ爲死去シタル者若ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ノ受ケ又ハ受クヘキ扶助料ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ年額ヲ二分シ各部分ニ付前項第三號ノ規定ヲ適用ス

第二條　大正九年三月三十一日現在ニ於テ軍人恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ノ恩給年額ハ其ノ年額ニ左ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ加ヘタルモノトス但シ增加恩給ニ付テハ前條第一項第一號ノ例ニ依ル

官	將官及相當官	佐尉官及相當官		准士官下士及卒
等	高等官			判任官
	一等二等三等四等五等六等七等八等			一等	判任官二等以下
加給割合	二、割	二、二、割	三、割	三、六、割	三、八、割	四、三、割	四、七、割	四、七、割	四、七、割	六、七、割

前項ノ規定ニ該當スル軍人ノ遺族大正九年四月一日以後扶助料ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ扶助料年額ニ付前項ノ規定ヲ準用ス

第三條　前二條ノ規定ハ恩給、軍人恩給、退隱料、扶助料、增加恩給又ハ增加退隱料ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第四條　第一條第一項第二號ノ規定ハ大正二年法律第七號ニ依リ休職ヲ命セラレタル判事及檢事竝大正二年法律第十二號ニ依リ休職ヲ命セラレタル會計檢査院及行政裁判所ノ高等官ノ休職給ニ付之ヲ準用ス

第五條　第一條及第三條ノ規定ハ大正九年三月三十一日現在ニ於テ市町村立小學校敎員退隱料及遺族扶助料法、明治二十九年法律第十三號、巡査看守給助例、巡查看守退隱料及遺族扶助料法又ハ明治四十三年法律第三十號ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ヨリ退隱料、扶助料又ハ之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第六條　本法ニ依ル加給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

附　則

本法ハ大正九年四月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス但シ第四條ノ休職給ニ付テハ大正九年八月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス

名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人又ハ其ノ遺族ニシテ大正九年三月三十一日現在ニ於テ進級前ノ階等ニ應スル恩給（給助金及賜恤金ヲ除ク）又ハ之ニ基ク扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ハ同日ヨリ名譽進級ニ因ル階等ニ應スル恩給又ハ之ニ基ク扶助料ヲ受クルノ權ヲ有スルモノトス

前項ノ規定ハ大正九年四月一日以後同年四月二十一日迄ノ間ニ名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人又ハ其ノ遺族ニシテ進級前ノ階等ニ應ズル恩給又ハ之ニ基ク扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ事由ノ生シタル者ニ之ヲ準用ス

第三　軍人恩給等ノ增額ニ關スル法律案

（政府提出）　第一讀會

軍人恩給等ノ增額ニ關スル法律案

第一條　大正九年四月一日以後軍人恩給法ニ依リ恩給ヲ受クヘキ事由ノ生シタル場合ニ於テハ同法第一號表乃至第四號表ノ恩給金額ハ各其ノ金額ニ左ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ加ヘタルモノトス但シ大正九年三月三十一日現在ニ於テ軍人恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ノ遺族カ大正九年四月一日以後其ノ恩給ニ基キ受クヘキ扶助料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

官	將官及相當官	佐尉官及相當官		准士官下士及卒
等	高等官			判任官
	一等二等三等四等五等六等七等八等			一等	判任官二等以下
加給割合	二、割	三、割	四、七、割	五、三、割	五、七、割	六、四、割	七、割	七、割	七、割	一〇、割

第二條　大正九年四月一日以後國庫ヨリ軍人恩給以外ノ恩給退隱料又ハ扶助料ヲ受クヘキ事由ノ生シタル場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額又ハ月俸額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル所ニ依リ臨時手當又ハ之ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額トス但シ大正九年四月一日前ニ受クヘキ事由ノ生シタル恩給又ハ退隱料ニ基ク扶助料ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條　前條ノ規定ハ大正九年四月一日以後市町村立小學校敎員退隱料及遺族扶助料法、明治二十九年法律第十三號、巡查看守退隱料及遺族扶助料法又ハ明治四十三年法律第三十號ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ヨリ退隱料又ハ扶助料ヲ受クヘキ事由ノ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條　本法ニ依ル加給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

附　則

本法ハ大正九年四月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス

○議長（奧繁三郎君）　橫田政府委員

（政府委員橫田千之助君登壇）

○政府委員（橫田千之助君）　政府ハ現受恩給者及軍人恩給ノ增額ヲ、經濟上ノ事情ニ鑑ミテ必要ト考ヘタノデアリマス、是ニ於テ本案ヲ提出スルコトニナリマシタ、御參考ノ爲メニ二三本案ノ要點ヲ申上グレバ、本案ハ增加恩給其他ノモノヲ包括シテ、大體五割ノ增額ヲ豫算ニ計上シテ要求シテアリマス、唯ダ此分配方法ハ上ニ薄ク下ニ厚キ方法ニ依テ率ヲ定メタノデアリマス、本案ガ簡單ナルベキ筈デアッテ、幾多複雜ノ規定ノアルハ之ガ爲メデアリマス、第二ニハ此增額ヲ四十二議會デ通過シタルト同一ノ成ルベク現狀ニ置キタイ、此意味ニ於テ遡及シテ、本年四月ヨリ之ガ適用ヲ受クルコトニ致シマシタ、（拍手起ル）第三ニハ上ニ薄ク下ニ厚キ所ノ分配ノ率ハ、官吏增俸ノ率ト努メテ權衡ヲ同一ニスルコトヲ主トシタノデアリマス、詳細ノ事柄ハ種々複雜ナ規定ガアリマスカラ、委員會ニ於テ申上ゲル考デアリマス（拍手起ル）

○高木正年君　質問ノ通告ヲ致シテ置キマシタカラ、御許シヲ願ヒマス

（高木正年君登壇、拍手起ル）

○高木正年君　私ハ今日政府ヨリ提出シテ日程ニ上リマシタ恩給法案、此法案ハ一見甚ダ……讀ミ來リマスルト云フト、頗ル二者ノ間ヲ了解ヲ得ナイヤウナ現象ニナッテ居ル、併シ能ク之ヲ仔細ニ讀ミ來リマスレバ、大體ノ了解ノ出來ナイコトハナイノデアリマス、デ私ノ質問致シタイト思フ點ハ二ッアル第一ハ現時ノ國民ノ生活程度ニ對シテ、此恩給ナルモノヲ與フル所ノ分量ガ、如何ニモ少額デアルト云フコトガ一ッデアリマス、第二ハ何故ニ當テ四十四年ニ一度試ミテ屢、議會ノ問題ニナッタ所ノ新舊ノ差ヲ、此際ニ於テ再ビ繰返スカト云フ點ニ在リマス、此文官ニ對スル分ト軍人ニ對スル分ト、法案ノ第一ニ現受ノ恩給トアル、第三ノ日程ニ上ッテ居ルノガ軍人恩給バカリデアルカト云フト、讀ミ來リマスレバ文官ノ恩給モ矢張此間ニ揭ゲテアル、其故ニ私ガ此法案ハ極メテ讀ミ惡イト云フノハ、兩者ノ間ノ分界ガハッキリ立ッテ居ラヌ、併ナガラ恩給ヲ與ヘル程度ニ於テハ、讀ミ來リマスレバ判ルニハ判ルノデアリマスガ、極メテ分リ惡イ法案デアルト云フコトハ言ヘルノデアリマス、私ハ此法案ヲ讀ンデ見マシテ、文官ノ方ノ歩合ハドウナッテ居ルカト云フト、是モ矢

張新舊ノ差ガアル、軍人程ニ甚シクハナイガ、矢張其間ニ差ガアル、文官ノ新タナル階級ノ方ハ如何ニナッテ居ルカト云フト、現受ノ俸給ニ所謂臨時事件費デ與ヘラレタ所ノ臨時手當ヲ加ヘテ、之ニ依テ恩給額ヲ計算シテアル、唯今横田法制局長官ノ言ハレルガ如ク、一般ニ能ク是等ノ生活ノ上ニ、最モ薄キ所ニ能ク均霑シテ居ルカト云フト、其點ニ於テハ甚ダ疑問ガ多イ、私共考ヘ來リマスレバ——二者ヲ通ジテ考ヘ來リマスレバ、今少シク今日ノ物價ノ程度ニ合ウテ、相當ノ恩給ノ方法ヲ考ヘ出スニ非ザレバ、身ヲ官界ニ託シテ、而シテ忠實ニ國務ニ從事セシムルト云フ點ニ於テハ、甚ダ多クノ遺憾ヲ感ズベキ點ガアルト思ヒマスガ、政府ハ此點ニ就テ、何故今日ノ程度ニ恩給ヲ增加スルニ止ッテ居ルカト云フコトガ一ッデアリマス、次ハ新舊ノ差デアリマス——私共ハ唯今ノ點ニ於テモ、今少シク補足致シテ置キマスルガ、軍人ノ待遇ノ上ニ就キマシテ、決シテ恩給者ハ、老後ノ扶養ノミヲ目的トスベキ性質ノモノデナイト私ハ考ヘテ居ル、身ヲ軍職ニ捧ゲテ、所謂青年士官ノ間ニハ、今日ノ狀態ニ於テハ極メテ其生活ハ悲慘ナモノデアル、青年士官ニ於テ家庭ヲ作ルト云フコトハ、殆ド今日ハ望ミナイト云フヤウナ社會ノ狀態ニ在リ、是等軍人ノ俸給ノ狀態ハサウナッテ居ル、切メテハ老後ニ於テ其一身ヲ託スルダケノ國家ガ之ニ對シテ相當ナ待遇ヲ爲スカト云フト、今日ノ軍人ノ恩給ニ於ケル所ノ待遇ナルモノハ、全ク生活保障ヲ爲ス程ダケノ金額ヲ得テ居ラヌ、是ハ現在ノ狀態デアル、之ガ爲メニ恩給法ノ改正ハ行ハレルノデアリマスルケレドモ、今日此額ニ於テ、果シテ老後ノ生活ノ保證ガ出來ルカハ、是亦甚ダ悲慘ナモノデアルト私ハ思フノデアリマス、殊ニ甚シキハ新舊ノ差ヲ設ケテ、是ハ初メニ申シタ如ク、四十四年ノ官吏增俸ノ際ニ一度試シテ、年々歲々議會ノ問題トナッテ、漸ク大正六年ニ此事ハ解決シタノデアリマス、所ガ再ビ今度此新舊ノ差ヲ設ケル、新舊ノ差ガドレダケ違フカト云フト、軍人恩給ニ於テハ、中將級ニ於キマシテハ、此間ノ差ハ無イ、少將級ニ於テハ新ガ三割、舊ガ二割二分ト云フ、即チ此間ニ八分ノ差ガアル、マダ將官ノ階級ニ於テ苦痛ハ無イト申シマスケレドモ、最モ甚ダシイノハ、此下級ノ將校乃至下士卒ニ於ケル所ノ恩給ノ程度デアリマス、一番今日悲慘ナ境遇ニ在ル所ノ尉官ノ、所謂大尉中尉以下ノ此新舊ノ差異ニ就テ、是ノ比例ヲ申シマスレバ、極ク最下級ノ所謂下士以下ノ者ニ對シテハ、新タナル恩給法ハ十割ノ增加ニナッテ居ル、然ルニ大正九年ノ三月三十一日以前ニ、所謂恩給ヲ受ケル身分ニナッタ者ニ對シテハドウスルカト云フト、七割六分デアリマス、新タナル者ガ十割デアッテ、舊キ者ハ七割六分、更ニ中尉ノ階級ニ於テドウナルカト云フト、新タナル者ハ七割デアッテ、舊ハ如何デアルカト云フト四割七分デアル、更ニ大尉ノ階級ニ於テ幾何デアルカト云フト、新タナル者ハ六割四分デアッテ、舊ハ四割三分デアル、又文官ノ方ニ就キマシテモ、最下級者ハ十ト六トノ差ガアルノデアリマス、現在三月三十一日以前ノ者ハ、四月一日以後ノ者トノ差ガ文官ニ於テモ最下級ニ於テ十ト六トノ差ガアル、中階級ニ於テハ六ト四トノ差ガアル、矢張軍人ノ恩給ノ新舊ノ差ト餘リ變ラヌノデアリマス、斯ノ如キ事ハ、果シテ我ガ軍人ノ待遇ノ上ニ、是ガ可ナリヤ不可ナリヤト云フコトヲ、之ヲ軍人ノ階級ニ於テ考ヘテ見マスレバ、國防ノ上ニ果シテ斯ノ如キ新舊ノ差ヲ置クト云フコトガ、能ク士氣ノ統一ガ出來ルカ否ヤト云フコトヲ、私ハ疑ハザルヲ得ヌノデアリマス、一朝事有ッテ動員ヲ爲ス場合ニ於テ、諸君ノ御承知ノ如ク、我國ノ國防ハ不斷在營スル兵士ニ依テ爲シ得ラルルモノデナイ、一朝今日ノ西伯利ノ出兵デアルトカ、或ハ尼港問題ニ關係シタ所ノ出兵デアルト云フガ如キハ、現時ノ在營兵デ間ニ合フノデアリマスガ、所謂有事ノ日ニ在リマシテハ、ドウシテモ豫備後備ノ軍隊ヲ動員セザレバ、我ガ國防ノ備ト云フモノハ爲シ得ルモノデハナイ、此場合ニ於テ所謂在鄉軍人ナル所ノ將校ヲ召集シ、若クハ下士卒ヲ動員シテ、斯ル時ニ於テ一ノ軍隊ニ在ル者ハ、一ハ十割ヲ受ケ、一ハ七割六分ヲ受ケ、一ハ七割ヲ受ケ、一ハ四割七分ヲ受ケルト云フガ如キ等差ヲ置イテ、如何ニシテ我ガ國防ノ上ニ、統一セル所ノ士氣ヲ保持スルコトガ出來ルカト私ハ言ハネバナラヌノデアル、私ハ年來此青年士官ノ待遇ニ就テ考慮シテ、ドウシテモ今日ハ兵器ヲ殖スヨリモ、人ニ對スル待遇ヲ好クスルコトガ肝腎デアル、是ハ單リ陸海軍バカリデハナイ、政府ガ總テノ官業ノ上ニ於テモ、將來ハ總テノ上ニ於テモ、徒ラニ事ヲ擴張スルヨリモ、先ヅ人ヲ整ヘ相當ナル働ヲ爲シ、國家ノ上ニ忠實ナル效果ヲ現サシムルニハ、人ノ待遇ノ改善ガ第一デアルト云フコトヲ唱ヘ來ッタノモ、此意ニ外ナラヌノデアリマス、此事ヲ考ヘ來ッタナラバ、此法案ハ如何ニモ不備デアル、ソレ故ニ先ヅ此法案ヲ一見シマシタ當時、私及同志ノ人ト共ニ、軍人恩給令ノ改正案ヲ出シタノデアリマス、文官ニ就キマシテハ、此法案ニ就テ出來得ル限リノ修正ヲ爲シテ、以テ今日俸給ニ衣食セラル、人ト、安心シテ國務ニ盡瘁セラル、途ヲ得タイト思ヒマス、茲ニ唯今申上ゲタ恩給ナルモノ、待遇ノ上ニ於テ、何故ニ政府ハ斯ル程度ノ恩給ニ就テ、今日ノ恩給者ニ對スル待遇ノ途ヲ得タリト爲サル、ヤト云フコトガ一點、更ニ新舊ノ差ヲ付ケルコトハ、如何ナル基礎ニ於テ斯樣ナル考ヲ持ッテ居ラルヽカ、斯樣ナル考ニ依テ、文武官ヲ統一シテ國務ニ鞅掌セシムルコトガ出來ルカ、此點ニ就テ答辯ヲ得タイト思ッテ、態〻登壇シタ次第デアリマス（拍手スル者アリ）

〔政府委員橫田千之助君登壇〕

○政府委員（橫田千之助君）　高木正年君ノ御質問ノ要項ニ對シテ簡單ニ御答致シマス、恩給ニ就テ新舊ノ區別ガアルノハ、是ハ恩給法全體ヲ通ジテノ大精神デアリマス、退官若クハ退職——公務ヲ去ッタ時ノ俸給ヲ基準トシテ恩給ヲ與ヘルト云フコトガ、是ガ恩給法全體ヲ貫イテノ精神、之ヲ變更スルコトハ一大革新デアリマシテ、今政府ハ其必要ヲ認メマセヌ、此一二例外トシテ、此原則ヲ餘リニ貫イテ事情ト副ハザル點ニ就テハ、若干ノ排排ヲシタ例ハアリマス、此法案ニ於テ實施ヲ遡及スル所以、亦此邊ニ考慮ヲ拂ッタ爲メデアリマス、第二ノ點ハ政府ハ此程度ノ恩給額ノ增加ニ於テ、果シテ軍人恩給者ノ生活ニ安慰ヲ與ヘルカドウカ、人心ヲ繫グ所以デアルカドウカ、斯ウ云フ意味ノ御質問デアラウト思フ、若シ恩給ニ關スル法令ガ、此增額ノ數量ノミニ固著シテ見マスレバ、高木君ノ御質問ハ洵ニ御深切ナル御質問デアリマシテ、敬意ヲ拂ハナクテハナラヌノデアリマス、併シ國家ガ爲サントシテ力ノ及バザル點ハ、マダ單リ是バカリデアリマセヌ、官吏增俸ノ事ト云ヒ、國防ノ事ト言ヒ、種々ノ釣合カラ考ヘテ見テ、日本現在ノ國力、國民ノ負擔力、諸般ノ釣合權衡カラ見マスレバ、政府ハ此法案ニ現レタ所ヲ以テ適當ナリト信ズルノデアリマス、是ダケ御答シテ置キマス

○議長（奧繁三郎君）　次ニ右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選擧ヲ議題ト致シマス

第二、第四　右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選擧

○岩崎勳君　日程第一第三ノ兩案ハ一括シテ、委員ノ數ハ特ニ十八名トシ、議長ニ於テ指名アランコトヲ望ミマス

〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕

○議長（奧繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（奧繁三郎君）　御異議ハ無イト認メマス、仍テ動

議ノ如ク決シマス――日程第五、大正五年法律第四號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス――神野政府委員

第五　大正五年法律第四號中改正法律案（政府提出）第一讀會

大正五年法律第四號中改正法律案

大正五年法律第四號中左ノ通改正ス

「三億二千萬圓以内」ヲ「四億八千萬圓以内」ニ改ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（政府委員神野勝之助君登壇）

○政府委員（神野勝之助君）　大正三年臨時事件ニ關シマシテ、臨時事件費ニ於テ、大正九年度分ト致シマシテ、更ニ追加要求ヲ爲スノ必要ガアルノデアリマス、ソレ故ニ追加豫算トシテ、一億三千四百餘万圓ヲ要求シテ居ルノデアリマス、其中一千百万圓ハ軍事費特別會計ノ收入ヲ以テ支辨致シマシテ、殘リ一億二千二百餘万圓ハ、借入金又ハ公債ヲ以テ支辨スル計畫ニナッテ居リマス、然ルニ其後尚ホ局面ノ變化ニ伴ヒマシテ、軍事費ニ於テ追加要求ヲ爲スノ必要ガ生ジマシテ、其額ハ約三千三百餘万ト見積ッテ居リマス、是ハ更ニ追加豫算トシテ、不日議會ニ提出ヲ致ス積リニナッテ居リマス、此二口ヲ合計致シマスト一億五千五百餘万圓トナルノデアリマス、之ヲ切上ゲテ一億六千万圓ト致シマシテ、現在ノ三億二千万圓ニ加ヘテ、合計四億八千万圓ノ公債又ハ借入金ノ制限額ト致シタイト云フノガ、本改正案ノ趣意デアリマス、御審議ノ上御協贊ヲ願ヒマス

○議長（奥繁三郎君）　日程第六、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第六　右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君　本案ハ政府提出大正四年法律第十六號中改正法律案ノ委員ニ、併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

「贊成」「贊成」ト呼フ者アリ」

○議長（奥繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長（奥繁三郎君）　御異議ハ無イト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ――日程第七、朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス――古賀政府委員

第七　朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案（政府提出）第一讀會

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中改正法律案

朝鮮醫院及濟生院特別會計法中左ノ通改正ス

第二條中「七十一萬圓」ヲ「九十二萬圓」ニ改ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（政府委員古賀廉造君登壇）

○政府委員（古賀廉造君）　本案ハ朝鮮ノ官立醫院特別會計法中ノ一部ヲ改正シヤウト云フ法案デアリマス、朝鮮ニ於テハ朝鮮總督府醫院、朝鮮總督府慈惠醫院、ソレカラ朝鮮總督府濟生院、此三ツデゴザイマスルガ、是ハ政府ノ支出ト料金ノ收入、基本金ノ利子等ヲ以テ經營シ來ッテ居ッタノデアリマス、而シテ政府ノ支出ハ、現行法ニ於テハ七十一万圓デゴザイマス、目下物價ノ騰貴ニ伴ウテ、藥品其他ノ資料ノ騰貴ヲ來シ、且又醫員其他職員ノ俸給手當等ノ增額ヲ必要トスル所カラ、此政府ノ七十一万圓ノ支出デハ中ニ足ラヌト云フ次第デ、今度更ニ二十一万圓ヲ增加シテ、都合政府支出ヲ九十二万圓ニシヤウト云フ改正案デアリマス、何卒御審議ノ上、御協贊アランコトヲ望ミマス

○議長（奥繁三郎君）　日程第八、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ニ供シマス

第八　右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君　委員ノ數ハ九名トシ、議長ニ於テ指名セラレンコトヲ望ミマス

「贊成」ト呼フ者アリ」

○議長（奥繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長（奥繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第九乃至第十四ハ、同一委員ニ付託シタル議案ナルニ依リ、一括シテ議題ニ致シマシテ異議アリマセヌカ

「異議ナシ」「異議ナシ」ノ聲起ル」

○議長（奥繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ一括シテ議題ニ供シマス、第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長天春文衛君

第九　銀行條例中改正法律案（政府提出）第一讀會ノ續（委員長報告）

一銀行條例中改正法律案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正九年七月十三日

銀行條例中改正法律案委員長

衆議院議長奥繁三郎殿

天春　文衛

第十　貯蓄銀行條例中改正法律案（政府提出）第一讀會ノ續（委員長報告）

報告書

一貯蓄銀行條例中改正法律案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正九年七月十三日

貯蓄銀行條例中改正法律案委員長

衆議院議長奥繁三郎殿

天春　文衛

第十一　日本勸業銀行法中改正法律案（政府提出）第一讀會ノ續（委員長報告）

報告書

一日本勸業銀行法中改正法律案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正九年七月十三日

日本勸業銀行法中改正法律案委員長

天春　文衛

衆議院議長奥繁三郎殿

第十二　農工銀行法中改正法律案（政府提出）第一讀會ノ續（委員長報告）

報告書

一農工銀行法中改正法律案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正九年七月十三日

農工銀行法中改正法律案委員長

天春　文衛

衆議院議長奥繁三郎殿

第十三　北海道拓殖銀行法中改正法律案（政府提出）第一讀會ノ續（委員長報告）

報告書

一北海道拓殖銀行法中改正法律案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正九年七月十三日

北海道拓殖銀行法中改正法律案委員長　天春　文衛

衆議院議長奧繁三郎殿

第十四　日本興業銀行法中改正法律案（政府提出）第一讀會ノ續（委員長報告）

報告書

一日本興業銀行法中改正法律案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正九年七月十三日

日本興業銀行法中改正法律案委員長　天春　文衛

衆議院議長奧繁三郎殿

〔天春文衛君登壇、拍手起ル〕

○天春文衛君　銀行條例中ノ改正案、其他貯蓄銀行條例ノ改正案、日本勸業銀行法ノ改正案、農工銀行法、北海道拓殖銀行法中ノ改正案、日本興業銀行法中ノ改正案、之ヲ同一委員ニ付託セラレマシテ、委員會ヲ開キマスルコト三回デゴザリマスルガ、其結果各派全員一致ヲ以チマシテ、可決致シマシタデゴザリマスルガ、其議案ノ大要ヲ申上ゲマスルト、銀行條例中ノ改正ニ於キマシテハ、近時社會ノ進運ニ伴ヒマシテ、追々銀行ノ合併ヲ必要ト致シマスルノ場合デゴザイマスルノデ、ソレデ此合併ヲ便宜ナラシメンガ爲メニ、此銀行條例中ノ改正ヲ提案ニナリマシタヤウナ次第デアリマス、ソレデ此商法ニ依リマスルト云フト、合併ノ際ニ於キマシテハ、如レタル所ノ債權者ニ對シマシテハ、各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要スルト云フコトガゴザイマスルガ、其中ニ預金者ニ對シマシテハ、預金者ハ最モ銀行ト密接ナル關係ガアリマスルモノナルガ故ニ、ソレデ是ハ別段ニ催告ヲスルト云フコトノ必要ハ要ラナイト云フコトデ、ソレデ「爲スコトヲ要セス」ト云フコトニナッタノデゴザリマス、其次ニ此銀行條例ノ第二條ニ、四ヲ加ヘマシタノデゴザイマスルガ、是ハ同ジク矢張此決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ、商法ノ此但書ニ依レバ「三箇月ヲ下ルコトヲ得ス」ト云フコトガゴザイマスルガ、是モ矢張「一箇月ヲ下ルコトヲ得ス」ト云フコトニ簡便ニ致シマスコトニナッタノデアリマス、其次ノ第二條ノ五ノ貯蓄銀行ト合併ノ際ニ於キマシテ、從來ハ貯蓄銀行ヲ他ノ銀行ト合併致シマスルトキニハ、一旦貯蓄金ハ之ヲ償還致シマシテ、サウシテ其上ニ合併ヲスルト云フコトニナッテ居リマスデゴザイマスガ、サウシマスルト云フト、非常ニ不便ヲ感ジマスル譯デゴザイマスルガ故ニ、合併ヲシタ後ニ、矢張此權利義務ヲ繼承セシメルト云フコトニナッタノデゴザイマス、是ガ大體銀行ノ條例ノ改正、之ニ附帶致シマシテ、矢張貯蓄銀行條例ノ改正モ必要ニ迫ッタノデゴザイマス、ソレカラ此日本勸業銀行法中ノ改正デゴザイマスルガ、是ハ既ニ第四十一議會ニ於キマシテモ、提案ヲ致シマシタヤウナ場合デアリマシタノデゴザイマスガ、是ハ議員中カラ提案ニナリマシタノデゴザイマスガ、然ルニ是ハ多年ノ矢張宿望デゴザイマシテ、年賦償還貸付金ノ總高ノ十分ノ一ト云フモノヲ、定期貸ニスルコトニナッテ居リマシタデゴザイマスガ、定期貸ト云フモノガ近時追々ニ殖エテ參リマシテ、尤モ此定期貸ヲ多クスルト云フコトハ非常ナ便利デゴザイマス、勞ラ以チマシテ此總高ノ十分ノ一ヲ、拂込資金及積立金總高ニ滿ツルマデノ、定期貸ヲスルト云フコトニ改正ニナッタノデゴザイマス、其他二十一條中ニ「一箇年以上五箇年以内」ト云フコトガゴザリマスケレドモ、五箇年以内トナリマスルト、最早一箇年以上ト云フ必要ハナイノデアリマス、ソレデ「一箇年以上」ヲ削ルト云フコトニナリマシタノデゴザリマス、其次ニハ第二十一條ノ二ノ年賦償還期限前天災事變其ノ他避クベカラザル事故ノアリマスル時ニハ、五箇年以内ニ於テ、更ニ据置年限ヲ定ムルト云フコトニ改正ニナリマシタノデゴザリマス、是ハ從來ノ法案ニ依リマスルト云フト、年賦償還ノ定方ニ於テ、天災事變等ニ罹リマシタ時ニモ、中斷致シマスコトガゴザイマセヌノデ、ソレデ一旦年賦ヲ定メマスルト云フト、繼續致シテ、ドンナ天災事變等ガアリマシテモ、務メナケレバナラヌ——償還シナケレバナラヌト云フコトデゴザリマスルガ故ニ、ソレデ天災事變等ガアリマシテ、已ムヲ得ズ定期ノ償還ヲスルコトガ出來ヌ場合ニ於テハ、矢張据置年限ヲ五箇年以内ニ更ニ定メル、斯ウ云フ便宜ヲ圖ッタノデアリマス、先ヅ勸業銀行法中ノ其他ノ事ハ、ソレニ連續致シテ、尚ホ二十九條ニ於テ、農工債券、北海道拓殖債券、又ハ朝鮮殖産銀行ノ發行スル債券ヲ、矢張擔保ニ取ルト云フコトニナリマシタ、是マデハ農工債券ノミニ限ッテ居ッタノデアリマスガ、矢張金融ノ便利ヲ圖ルガ爲メニ增加致シマシタ、ソレカラ農工銀行法ノ改正案ハ、矢張勸業銀行ト同一ナ趣意ヲ以チマシテ、改正ニナッタノデアリマスカラ、是ハ別段說明ヲ申上ゲルマデノ必要ハ無カラウト思ヒマス、ソレカラ北海道拓殖銀行法中ノ改正ハ、是マデ三十箇年トアリマスノヲ、五十箇年ノ期限ニ延シマスコトニ致シマシタ、又耕地整理法ニ於キマシテハ、最モ聯合會ト云フモノガ——是ハ勸業銀行ノ所デ申落シマシタガ、矢張耕地整理ノ聯合會ヲ組織スルコトニナリマシタノデゴザイマスルガ故ニ、聯合會ニモ矢張同ジク年賦償還デ、定期貸等ヲ貸付ケルト云フコトガ規定ニナッタノデアリマス、ソレカラ「二十人以上」トアリマスノヲ、「十人」ニ致シマシタノデゴザリマス、北海道ハ點々致シテ居住民ガ居リマストト云フヤウナ場合デアリマスカラ、二十人ト云フノハ多キニ失シマスルヤウナ場合デ、不便デゴザイマスルガ故ニ、十人ニナリマシタノデゴザリマス、ソレカラ八條ノ貸付金總額ノ三分ノ二ト云フノヲ、矢張勸業銀行農工銀行法等ノ精神ニ依テ、貸付金ノ總額ニ當リマスダケノ貸與ヘヲスル、斯ウ云フコトニナッタノデゴザリマス、ソレカラ日本興業銀行法中ノ改正ハ、其主ナルモノハ興業銀行ノ券面金額ガ、是マデハ五十圓ト云フコトニナッテ居リマスノヲ、ソレヲ五十圓以下ノ興業債券ヲ發行スル場合ニ於テハ、賣出ノ方法ニ依テ應募者ヲ求メルト云フコトノ便宜ヲ圖リマシタノデゴザイマス、ソレカラ其他興業債券ノ賣出期間滿了ノ日ヨリ之ヲ起算シテ、登記スヘキ事項ハ、總テ興業債券ヲ發行シタル場合ニ於ケル社債ノ登記ノ申請所ニハ、賣出期間內ニ於ケル興業債券ノ賣上總額ヲ證スル書面ヲ、添付メルコトヲ要スト云フコトニナッタノデアリマス、是モ便宜ヲ得ルガ爲メニ斯ノ如ク改正ニナッタノデゴザイマス、斯ノ如キ次第デ、大要ヲ申上ゲマスルト、斯ウ云フ場合デゴザイマスルガ、乃チ委員會一致ヲ以テ可決致シマシタヤウナ場合デゴザイマスカラ、ドウカ御贊成アランコトヲ希望致シマス（拍手起ル）

○議長（奧繁三郎君）　本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ諮リマス

〔「第二讀會ヲ開イテ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（奧繁三郎君）　異議ナシト認メマス、第二讀會ヲ開クコトニ決シマシタ

○岩崎勳君　日程第九乃至十四ノ六案ヲ一括シテ、直チニ其第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通リニ御確定セラレルコトヲ望ミマス

〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕

○議長（奧繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長（奧繁三郎君）　異議ナイト認メマス、直チニ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ致シマス

銀行條例中改正法律案　第二讀會（確定議）
貯蓄銀行條例中改正法律案
第二讀會（確定議）
日本勸業銀行法中改正法律案
第二讀會（確定議）
農工銀行法中改正法律案
第二讀會（確定議）
北海道拓殖銀行法中改正法律案
第二讀會（確定議）
日本興業銀行法中改正法律案
第二讀會（確定議）

〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長（奧繁三郎君）　委員長報告通リ異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長（奧繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ委員長報告通リ可決確定致シマシタ
○岩崎勳君　議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、卽チ爰ニ政府提出小額紙幣發行ニ關スル法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キ、委員長ノ報告ヲ求メ、且ツ其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス
〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕
○議長（奧繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長（奧繁三郎君）　異議ナイト認メヌ、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、小額紙幣發行ニ關スル法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス――理事井內歡二君

小額紙幣發行ニ關スル法律案（政府提出）
第一讀會ノ續（委員長報告）（確定議）

報告書
一小額紙幣發行ニ關スル法律案（政府提出）
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正九年七月十三日
小額紙幣發行ニ關スル法律案理事
井內　歡二

衆議院議長奧繁三郎殿

〔井內歡二君登壇、拍手起ル〕
○井內歡二君　今井委員長病氣缺席ノ爲メ、本員カラ代ッテ委員會ノ經過ヲ報告致シマス、委員會ヲ開クコト三回、政府委員カラ詳細ナル說明ヲ受ケマシテ、委員諸君カラ小紙幣ノ紙質ノ改良其他ニ就キマシテ色々質問ガアリマシタ詳細ノ質問ハ會議錄ニ記載ノ如ク色々幾ツモアリマシタガ、結局御出席ノ委員ガ滿場一致デ可決致シタノデアリマス、ドウカ御承認アランコトヲ望ミマス
○岩崎勳君　本案ハ讀會ノ順序ヲ省略シテ、委員長報告ノ通リ可決確定セラレンコトヲ望ミマス
〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕
○議長（奧繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長（奧繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ本案ハ委員長報告ノ通リ可決確定致シマシタ、日程第十五、治安警察法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス――提出者清瀨一郎君

第十五　治安警察法中改正法律案（清瀨一郎君外三名提出）　第一讀會

治安警察法中改正法律案
治安警察法中左ノ通改正ス
第二條　政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ヲ開カムトスル者ハ發起人ヲ定メ管轄警察官署ニ屆出ツヘシ
第三條中「又ハ第二條」ヲ削ル
第四條中「十二時間」ヲ「六時間」ニ改ム
第五條第一項中第三號乃至第五號ヲ削ル
同條第二項中「女子及」ヲ削ル
第八條第一項ヲ左ノ如ク改ム
屋外ノ集會又ハ多衆ノ運動若ハ群集ニシテ安寧秩序ヲ紊シタル場合ニ於テハ警察官ハ集會若ハ群集ヲ解散シ又ハ運動ヲ制限スルコトヲ得
第十條「違背シ」ヲ「違背シタル」ニ改メ「其ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムル」ヲ削ル
第十七條　削除
第二十條　第二條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十三條第二十四條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條中「輕禁錮」ヲ「禁錮」ニ改ム
第三十條　削除
第三十一條中「重禁錮」ヲ「禁錮」ニ改ム

〔清瀨一郎君登壇、拍手起ル〕
○清瀨一郎君　治安警察法中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ說明致シマス、現行ノ治安警察法ハ、元ト明治十三年集會條例ヨリ出デタモノデアリマス、當時ハ主トシテ民選議院ノ設立請願、民權自由ノ議論、是等ノ論客ヲ壓迫スル爲メニ、隨分ト濫用セラレタモノデアリマス、吾々ノ先輩ハ、隨分ト此法律ニ依テ苦シメラレタモノデアリマス、其後二三ノ沿革ヲ經マシテ、現行ノ治安警察法ナルモノガ出來タノデアリマスガ、熟々此法律ノ規定ヲ翫味致シテ見マスルト、其根柢ニ於テ、今日ノ文明ト容ルベカラザル二ツノ思想ヲ根據ト致シテ居ル、其一ハ人民ガ政治ニ干與スルト云ウコトハ、ソレ自身ガ不法デナイガ、動トモスルト云フト國家ノ安寧ヲ害スルモノデアルカラ、政治運動ニ就テハ相當ノ檢束ヲ加ヘル必要ガアル、卽チ民ヲシテ由ラシムベシ、知ラシムベカラズト云フ思想ノ流ヲ汲ンデ居ルト云フコトガ第一點デアリマス、ソレカラ此法律全體ヲ通ジテ、勞働者ノ結合權トルモノヲ認メテ居ラヌト云フコトガ二ツデアリマス、此二ツノ思想ハ今日ノ立憲國家――日本ノ如キ立憲國家ニ於テハ、ドウシテモ是ハ一致融合セヌ所ノ――社會生活國家生活ト、融合セザル傾嚮ノアル思想デアリマスルガ故ニ、此束縛ヲ打破シテ、サウシテ今日ノ改造ノ世ノ中、自由ノ世ノ中ニ適應セシムベク鑄直スコトガ、吾々ノ提案ノ大趣意デアリマス、簡單ニ各條項ノ說明ヲ致シマスト、第二條第四條ノ改正ヲ要求致シマシタノハ、是ハ政治上ノ集會ノ容易ナランコトヲ希望シタコトナノデアリマス、現行ノ法律ニ於テハ、政治上ノ會同ヲスルニ就テ、長キ時間ノ豫告ヲ待ッテ、始メテ之ヲ開クコトヲ得ルノデアリマス、殊ニ屋外ノ會同ニ至ッテハ、十二時間以前ノ通告ヲ要スルノデアリマス、此點ニ就テ改正ヲ試ミタノガ第二條乃至第四條ノ改正デアリマス、第二點ノ第八條乃至第十條ノ改正ハ、是ハ言論ノ自由ニ關スル問題デアリマス、是ハ日々吾々ガ經驗致シテ居ル問題ノ一ツ、第八條ニ於テハ安寧秩序ノ爲メニ必要ナリト警察官ガ認メタナラバ、直グ屋外集會ノ解散ガ出來ル、第十條ニ依レバ、安寧秩序ヲ紊ス虞アリト認ムルトキハ發言ノ中止ガ出來ル、元々修養ノ低キ所ノ警察官ガ斯ノ如キ重大ナル規定

ヲ濫用スル結果、政治上ノ集會ニ於テ紊亂ヲ來シ、混亂ヲ生ジ、終ニハ怪我人ヲ生ズルト云フ騙ハ、始終吾ヽノ經驗スル所デアリマス、之ガ爲メニ人民ヲシテ官憲ニ對スル憎惡心ヲ挑發シタコトハ、勝ケテ算ルコトノ出來ナイ次第デアリマス、彼ノ忌ムベキ大逆事件ト雖モ、元ヽ此治安警察法ガ殃シタト云フコトハ是ハ事實デアル、當時ノ官憲ガ此規則ノ適用ヲ誤ッタノガ、彼ノ忌ムベキ幸德秋水事件デアッタノデアル、吾ヽハ第二ニ此點ニ向ッテ眞面目ナル研究ヲ盡シ之ガ改正ヲ要求スノデアリマス、第三ハ治安警察法五條ノ改正ノ要求デアリマス、此五條ハ二ツノ事ヲ含ンデ居リマス、一ハ神官、僧侶、敎師、警察官竝ニ婦人、是等ノ者ガ政治上ノ結社ニ入ルコトヲ禁ジテ居ルノデアリマスケレドモ、吾ヽハ一方ニ於テ學校ノ敎師、僧侶其他ノ者ニ就テハ、議員ノ被選權マデモ與ヘナケレバナラヌ、殊ニ學校敎員ハ、第二ノ國民ヲ造ル其人デアルガ故ニ、之ヲ國ノ政治ト遠ザケルコトハ不當デアルト云フ主張ヲ持チマスルガ故ニ、先ヅ是等ノ者ノ政治ノ結合ニ加入スル權利ヲ認メタイノデアリマス、同條ニ包含スル第二ノ點ハ、婦人竝ニ未成年者ノ、政治的集會ニ出席スルコトヲ禁ジテ居ルノデアリマス、ケレドモ原總理大臣デサヘモ、認メラレル通リ、行ヽハ婦人ニモ參政權ヲ與ヘナケレバナヌト云フノガ今日ノ趨勢デアル婦人ノ政治上ノ集會ニ出席スルコトヲ禁ズル根據ハ一モ無イ、政治上ノ集會ノ中ノ最モ重ク且ツ大ナルモノハ此席デアル、之ニ婦人ノ傍聽ヲ許シテ、出席ヲ許シテ、他ノ集會ニ之ヲ禁ズルト云フコトハ、ドウシタッテ是ハ理由ナキ事デアリマスル故ニ、先ヅ此禁ヲ撤廢スベシト云フノガ、此條項改正ノ理由デアリマス、終リニ——而シテ最モ重大ナルモノハ、此治安警察法第十七條ノ撤廢デアリマス、吾ヽハ此十七條竝ニ之ニ牽聯スル第三十條ノ改正デハナクシテ、撤廢ヲ要求致シテ居ルノデアリマス、簡單ニ其理由ヲ陳述致シマス、治安警察法ノ第十七條ハ、洽ク世ニ知レテ居ル法條ノ一ッデアリマスガ、之ヲ概言致シマスルト、暴行、脅迫、誹毀、誘惑、煽動、此五ツノ方法ヲ以テ勞働者ノ結合ヲ謀リ、若ハ同盟罷業ヲ謀ッタ者ハ之ヲ罰スルト、斯ウ云フ規則デアリマス、審ニ此規則ヲ考ヘテ見マスルノニ、先ヅ第一カラ第三ノ暴行、脅迫、誹毀、是等ノ行爲ハ、其手段自身ガ既ニ不法デアルガ故ニ、是ハ刑法ニ於テ既ニ其刑名ヲ定メテ居ル、而モ其刑タルヤ、必シモ治安警察法ヨリハ輕クハナイノデアリマス、唯ダ誹毀ニ就テハ、親告罪ト致シテ居ル相違ガアリマス、一方ニ於テ刑法ニ規定ガアル以上ハ、是ガ結合若ハ同盟罷業ニ牽聯スルカラト云ッテ、何モ別ノ規定ヲ設クル必要ハナイト考ヘルノデアリマス、何トナレバ後ニ說明スルガ如クニ勞働者ノ結合ハ權利デアッテ、不法デナイト云フ信念ヲ持ッガ故デアリマス、第四ノ誘惑、第五ノ煽動、此二ツノ手段ニ就テハ最モ愼重ナル考慮ヲ要スルノデアリマス、抑ゝ誘惑ト云フノハ何カ、是ハ他人ヲ勸誘スルニ外ナラヌ、併ナガラ勸誘ノ目的ガ惡イ場合ニ、誘惑トカ、誘拐トカ、惡シキ形容詞ヲ附ケルノデアリマス、ソレ故ニ單純ナル勸誘ニ對シテ、誘惑煽動ト云フ不穩當ナ言葉ヲ用井タノハ、是ハ立案者ガ結合權ノ何タルヲ知ラズ、同盟罷業若ハ勞働者ノ結合ヲ惡シキ事ナリト考ヘタル結果、其手段タル勸誘ヲ以テ「惑」ノ字ヲ冠ラセテ、之ヲ誘惑ト稱シ、煽動ト稱シタニ外ナラヌノデアリマス、然ラバ此勞働者ノ結合、若ハ同盟罷業ハ、ソレ自身道德上、或ハ法律上、不當ナル事デアルカ否カヽ研究ノ問題デアル、之ニ依テ勝敗ハ決スルノデアリマス、是ハ論理ノ問題デアリ道德ノ問題デアリマスルガ故ニ、本來此議論ハムツカシイノデアリマス、唯ダ併シ今日トナッテハ、深ク議論ヲスルコトヲ要セヌト云フノハ、昨年締結サレマシタ彼ノ有名ナル平和條約デアリマス、此平和條約ニ依テ、我國政府ハ勞働者ノ結合權ヲ認メテ、其第三篇「勞働」ト題スル篇ノ前文ニハ、結合自由ノ原則ヲ承認シテ、サウシテ勞働者ノ貧困狀態ヲ救濟スルコトハ人道ニ適シ、斯樣ニスルコトガ永久ノ平和ヲ來ス所以デアルト云フコトガ書イテアリマス、而シテ此文書ニハ、我國ノ主權者ハ之ニ署名ヲ致シ、吾ヽハ之ヲ承認シ、日本國ニ於テハ動カスベカラザル法律、若ハ道德ノ基礎ヲ成シテ居ル以上ハ、今日ニ至ッテ、勞働者結合權ノ最非善惡ヲ論議スル餘地ハ無イノデアリマス、既ニ勞働者ノ結合權ガ是認サレル以上ハ、之ヲ勸誘スル方法ヲ故ラニ誘惑ナリト稱シ、煽動ナリト稱シ、之ニ澁ムニ刑罰ヲ以テスルト云フコトハ、毫モ理由ノ無イコトハ明瞭デアリマス、前ノ議會ニ於テ政府當局者ハ、治安警察法ノ第十七條ノ撤廢ハ望マシイガ、今其時機デナイ、併シナガラ此適用ニハ手心ヲスルト云フコトヲ明言サレテ居ル、行政官ノ手心ハ是ハ憐デアリマス、勞働者ノ結合權ハ是ハ權利デアリマス、吾吾人民ハ此權利ヲ有ッテ居ルニ拘ラズ、一警察官ノ憐ニ依テ此事ヲシナケレバナラヌト云フ筈ハナイ、治安警察法ノ撤廢ハ、今日ハ政治ノ問題デハナクシテ、論理ノ問題デアル、理窟ノ問題デアル、論理ヲ以テ進メバ、ドウシテモ手心ニ一任スベキ筈ノモノデハナイ、法律ヲ以テ撤廢スルノガ當前デアリマス、且又一方ニ於テ假リニ同盟罷業ヲ壓迫シ、勞働者ノ結合ヲ壓迫シ、是ノミヲ以テ得タリトシテ、此法律ヲ手心ニ依テ、或ハ適用シ、或ハ適用セザラントシタ、施政ノ方針ノ結果生ジタ事ハ何デアルカト云ヘバ、是ハ卽チ「サボタージユ」デアリマス、治安警察法ハ同盟罷業ニノミ著眼ヲシ之ヲ壓迫センガ爲メニ之ヲ免レテ、サウシテ自己ノ要求ヲ貫徹セント企テタノガ、是ガ卽チ川崎造船所ニ起ッタ所ノ「サボタージユ」怠業其モノデアリマス、彼ノ忌ムベキ怠業ガ我國ニ起ッタ事ハ、治安警察法ノ改正ヲ拒ンダ所ノ當局ニ罪ガアルト私ハ考ヘマス、(拍手起ル)斯樣ナ次第デアリマスカラ、愼重審議ノ上ニ、本案ノ御贊成ヲ希望スル次第デアリマス

○岩崎勳君　議長

○議長(奧繁三郎君)　岩崎君

〔小山松壽君「政府ニ質問ガアリマスカラ御許ヲ願ヒタイ」岩崎勳君「ソレデハ私ハ後ニ致シマス」ト呼フ〕

○議長(奧繁三郎君)　小山君、政府ノ人ハ今出席ニナッテ居マセヌガ、唯今ノ場合必要ナル質問デスカ

〔「委員會デハ如何デス」ト呼フ者アリ〕

○小山松壽君　此重要ナ法案ヲ議スル場合ニ、政府委員ガ一人モ居ナイノヲ本員ハ遺憾ニ存ジマス、併ナガラ左樣ナ不誠意デアリマスレバ致方ガアリマセヌカラ、委員會デモ宜シウゴザイマス

○岩崎勳君　本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕

○議長(奧繁三郎君)　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(奧繁三郎君)　異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十六、軍人恩給法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者近藤達兒君

第十六　軍人恩給法中改正法律案(近藤達兒君外一名提出)　第一讀會

軍人恩給法中改正法律案

軍人恩給法中左ノ通改正ス

第十條第二項中「第一項ノ金額十分ノ六以內」ヲ「第一項乃至第六項ノ金額」ニ改ム

第十一條中「左ノ期限內ニ」ヲ削ル

同條第一號及第二號ヲ削ル

第十四條中「下士」ヲ「將校」ニ改ム

二十七條ニ左ノ一號ヲ加ヘ第三號ヲ第四號ニ改ム

三　戰鬪若クハ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ增加恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキ權利ヲ有シテ死沒シタルトキ

第二十八條第一項第一號乃至第三號ヲ左ノ如ク改ム

一　前條第一ニ當ルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額ニ其二分ノ一ヲ加ヘタル金額

二　前條第二ニ當ルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額

三　前條第三ニ當ルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額ニ第三號表ノ金額ヲ加ヘタルモノノ二分ノ一

四　前條第四ニ當ルトキハ第一號表又ハ第二號表ノ金額三分ノ一

第二十八條ノ二　寡婦ニシテ兒子アル者ニハ兒子ノ年齡滿二十歲ニ達スルマテ前條扶助料ノ外左ノ育兒手當ヲ給ス

一長兒　年額金百八十圓
一次兒　同　金百二十圓
一三兒　同　金八十四圓

以下一人金六十圓宛トス

長兒滿二十歲ニ達スルカ若クハ死亡シタルトキハ次兒ニ長兒ノ金額ヲ給ス以下之ニ準ス

第三十五條中「其軍人現役中ヨリ引續キ同一戶籍內ニ在ル者ニ限リ寡婦ハ尙陸海軍兵籍簿ニ登記シタル者」ヲ「其軍人ト同一戶籍內ニ在ル者」ニ改ム

第三號　增加恩給表

種類 / 官階 / 症項		將官同相當官	佐官同相當官	尉官同相當官	下士及海軍一等兵	兵卒
甲號	第一項	二、〇〇〇圓	一、七五〇圓	一、五〇〇圓	一、二五〇圓	一、〇〇〇圓
	第二項	一、八〇〇	一、五七五	一、三五〇	一、一二五	九〇〇
	第三項	一、五〇〇	一、三一三	一、一二五	九三八	七五〇
	第四項	一、二〇〇	一、〇五〇	九〇〇	七五〇	六〇〇
	第五項	九〇〇	七八八	六七五	五六三	四五〇
	第六項	七二〇	六三〇	五四〇	四五〇	三六〇
乙號	第一項	一、八〇〇	一、六〇〇	一、四〇〇	一、一五〇	九〇〇
	第二項	一、五〇〇	一、三一三	一、一二五	九三八	七五〇
	第三項	一、二〇〇	一、〇五〇	九〇〇	七五〇	六〇〇
	第四項	九〇〇	七八八	六七五	五六三	四五〇
	第五項	七二〇	六三五	五四〇	四五〇	三六〇
	第六項	六〇〇	五二五	四五〇	三七五	三〇〇

附　則

本法ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際現ニ增加恩給若クハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ權利ヲ有スル者ニハ本法施行ノ日ヨリ本法規定ノ金額ヲ給ス

〔近藤達兒君登壇、拍手起ル〕

○近藤達兒君　私ノ提出致シマシタ軍人恩給法中改正法律案ハ、先刻政府ヨリ提案セラレマシタル「軍人恩給等ノ增額ニ關スル法律案」ト少シク異ッテ居ル點ガアルノデアリマス、先刻政府ノ提出サレマシタモノハ、一般的ノモノデアリマスルガ、私ノ唯今說明致シマスルモノハ、彼ノ恩給法中ノ一部ニ關スル問題デアリマシテ、畢竟先刻政府ノ提案ト私ノ提案トガ相須ッテ、完全ナル恩給法ノ改正ガ實行出來ヤウト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレデ私ノ提案ハ、軍人ガ戰爭若クハ公務ノ爲メニ、不具廢疾トナリタル者ノ增加恩給ニ關スルモノガ、其主ナルモノデアリマス、而シテ其改正ヲ致サント欲スル點ハ、恩給法中ノ第十條、第十一條、第十四條、第二十七條、第二十八條、又第三十五條ニ當ッテ居リマスルガ、其內容ノ詳細ナ事ヲ申シマスレバ、時間ヲ費シ、且ツ混雜致シマスカラ、何レ本案ハ委員ニ御付託ニナルコトト信ジテ居リマスカラ、其際委員會ニ於テ詳細ニ說明ヲ致ス考デアリマス、今日ハ其內容ノ說明ハ省略致シテ置キマス、何卒御贊成アランコトヲ希望致シマス（拍手起ル）

○岩崎勳君　本案ハ日程第一及第三、卽チ政府提出現受恩給者ノ恩給等ノ增額ニ關スル法律案外一件ノ委員ニ、併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕

○議長（奧繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（奧繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十七、第十八ノ議案ハ提出者ガ同一デアリマスルカラ、一括シテ議題ニ供シマス、御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（奧繁三郎君）　異議ナイト認メマス、日程第十七、第十八ヲ一括シテ議題トシ、其第一讀會ヲ開キマス、提出者土井權大君

第十七　重要物產同業組合法中改正法律案（土井權大君外一名提出）　第一讀會

第十八　產業組合法中改正法律案（土井權大君外一名提出）　第一讀會

重要物產同業組合法中改正法律案

產業組合法中改正法律案

第九條第一項ヲ左ノ如ク改ム

組長ハ其ノ同業組合又ハ同業組合聯合會ヲ代表シ其ノ事務ヲ管理ス

第十一條ノ二　經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ組長ノ請求アルトキハ市町村ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

前項ノ徵收金ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノヽ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付時效ニ關シテハ國稅ノ例ニ依ル

重要物產同業組合法中改正法律案　第一讀會

產業組合法中改正法律案

〔土井權大君登壇、拍手起ル〕

○土井權大君　重要物產同業組合法中改正法律案ト、其次ハ產業組合法中改正法律案、斯ウ云フコトニ相成ッテ居リマス、御承知ノ通リ近時我ガ產業界ノ形勢ハ、優勝劣敗弱肉强食、斯ウ云フヤウナ有樣デアリマシテ、益々大資本的企業ト云フモノガ盛ニ相成ルノデアリマス、是ニ於テカ農工商共ニ此小サナ企業ハ益々小サクナリ、大ナル企業ハ益々大キクナリ、富者倍々富ミ、貧者倍々貧ニ相成ルガ如キ傾向ヲ來シツヽアルノデアリマス、此間ニ處シ、獨リ此小企業デアル所ノ小サナ農工業ノ如キ、所謂中產階級、若ハ中產階級以下ノ直接味方トナル所ノ制度ハ、唯ダ茲ニ二ツシカ無イノデアリマス、產業組合法ト同業組合法ト在ルノミデアリマス、乃チ此二ツノ法律ハ、御承知ノ通リ、中產階級、並ニ中產階級以下ノ福利增進ヲ圖ルベキ一般的經濟組織トシテ、我國ニ存シテ居ル次第デアリマス、其他ニハ一ツモアリマセヌコトハ御承知ノ通リデアリマス、特ニ產業組合ハ御承知ノ通リ、其運用ノ方法其宜シキヲ得マシタナラバ、農業勞働者ノ福利增進ノ上ニ利益スルコト多大ニシテ、尙又工業勞働者ノ經濟的地位ヲ向上スルニ就テモ、多大ナル效果ノ有ルコトハ敢テ喋々ノ要ハアリマセヌ、而シテ是等ノ法

律ハ、何時カラ實施サレタカト申シマスレバ、御承知ノ通リ明治三十三年ヨリ實施サレテ居ルノデアリマス、爾來一部ノ改正ハゴザイマシタガ、尚ホ更ニ隨時改正ヲ致シ運用ニ努メナカッタナラバ、今日ノ如キ資本萬能大企業者跋扈ノ時代ニ方リマシテハ、中産階級竝ニ中産階級以下ノ者ト云フモノハ、經濟上ノ落伍者ト相成ル、斯フ云フコトニ相成ル、故ニ私共ハ常ニ此二ツノ法案ノ改正、竝ニ運用ニ注意ヲ致シテ居ル次第デアリマス、其點ヨリ致シマシテ、茲ニ聊カ改正ヲ要スベキ點ヲ發見致シマシテ、此二案ヲ提出致シタ次第デアリマス、第一ハ重要物産同業組合法中ノ改正法律案其一、代表ニ關スル規定デアリマス、御承知ノ通リ同業組合ハ法人デアリマス、總テノ法人ニハ、代表ニ關スル所ノ規定ト云フモノガ定ッテ居リマスルガ、獨リ此同業組合ニハ、代表ニ關スル規定ト云フモノガ無イノデアリマス、會社ニ致シマシテモ、商業會議所ニ致シマシテモ、農會ニ致シマシテモ、代表ニ關スル規定ト云フモノガアリマスガ、同業組合ノミハ如何ナル譯デアルカ、代表ニ關スル規定ハ拔ケテ居リマス、而モ尚ホ吾々ノ見ル所ニ依リマスレバ、同業組合ハ一種ノ公法人デアリマス、故ニ直チニ民法ノ法人ノ規定ニ從ッテ、代表規定ヲ適用スルコトモ出來ナイト云フ狀態デアリマス、是ハ確ニ立法上ノ缺陷デアルノミナラズ、實際此法律ヲ運用スル上ニ於キマシテ、種々ナル疑惑ガ起ル次第デアリマス、仍テ法制ノ統一ノ必要ヨリシテ、又運用上ノ必要ヨリ致シマシテ、同業組合長ハ其組合ヲ代表ス、斯ウ云フ規定ヲ設クル必要ガアルノデアリマス、其ノ二ハ經費及過怠金ノ滯納處分ニ關スル件デアリマス、御承知ノ通リ同業組合ハ、同業者ノ業務上ノ弊害ヲ矯正スルト云フコトガ第一ノ目的デアリマス、其次ハ信用維持、其次ハ共同ノ利益增進、斯ウ云フ目的ヲ以チマシテ組立テラレマシタル所ノ、公法上ノ團體デアリマス、是ニ於テカ御承知ノ通リ、同業組合ノ設置セラレテ居リマスル地域内ノ同業者内ニハ、其强制加入ヲ命ズルコトニナッテ居リマス、此强制加入ガアッテ、始メテ同業組合ノ效果ト云フモノガ發揮セラルルノデアリマス、然ルニ同業組合ハ斯ノ如キ公法上ノ團體タルニ拘ラズ、斯ノ如キ强制力ヲ持ッテ居ルニ拘ラズ、若シ組合員ニシテ經費ヲ滯納シタル場合ニ、ソレニ對スル制裁方法ガ無イ、又過怠金ヲ滯納シタル場合ニ於テ之ヲ徵收スル方法ガ無イ、絶對ニ無イトハ申シマセヌガ、ソレハ民法上ノ手續デアリマスカラ、斯ノ如キ手續ハ非常ニ不便ニシテ、同業組合ノ發達上障害ヲ來スコトガ多イノデアリマス、故ニ經費及過怠金ノ滯納ノアリシ場合ニハ、國稅滯納ノ處分ノ例ニ依テ、之ヲ處分スルト云フコトヲ規定スルコトガ、最モ今日必要デアルト信ズルノデアリマス、(「ヒヤ〳〵」ト呼フ者アリ)其次ハ第二ハ產業組合法中改正法律案デアリマスガ、是モ極ク簡單ナモノデアリマス、其一ガ生產組合中經濟上必要ナル設備利用ニ關スル件デアリマス、現行ノ產業組合ヲ眺メマスルト云フト、生產組合ニ於キマシテハ、產業上必要ナル設備ヲ生產組合ニ於テ拵ヘマシテ、之ヲ組合員ニ利用セシムルト云フコトハ認メテ居リマスガ、組合員ノ經濟上ノ基礎デアル所ノ生計ニ必要ナル——生活ニ必要ナル設備ヲ完備シテ、組合員ニ之ヲ利用セシムル所ノ規定ガ無イノデアリマス、例ヘバ宅地ヲ組合員ニ利用セシムルトカ、住宅ヲ利用セシムルトカ、若ハ簡易食堂、又ハ浴場、斯ノ如キモノヲ組合員ニ利用セシメル所ノ規定ガ無イノデアリマス、御承知ノ通リ產業組合ハ、社會政策ノ實行上最モ必要ナル機關デアリマス、折角斯ノ如キ社會政策ノ實行上ニ必要ナル機關ガアルニ拘ラズ、唯今申上ゲマシタ如ク、經濟上ノ基礎ヲ安定ニスル設備ガ無イト云フコトハ、是レ正シク規程ガ不備デアルト斯ウ考ヘマシタルガ故ニ、經濟上必要ナル設備ヲ利用セシメ得ラレル所ノ途ヲ開クノヲ、最モ必要ナリト私ハ信ズルノデアリマス、其二ハ信用組合、卽チ產業組合法中ノ信用組合ニ、金庫事務取扱ノ途ヲ開クト云フコトデアリマス、是ハ小サナ問題デアリマスルガ、市町村ノ財務規定ト云フ規則ヲ眺メマスルト、二十三條ニ、市町村ハ現金ノ出納又ハ保管ノ爲メニ市町村金庫ヲ置クコトヲ得、其次ニ金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ、市町村會之ヲ定ムト云フコトニナッテ居リマス、市町村ガ金庫事務ヲ置イタ場合ニハ、必ズ銀行ヲシテ其取扱ヲサセナケレバトラヌト、斯ウ云フヤウニ讀メルノデアリマス、所ガ御承知ノ通リ此頃ハ到ル處ノ信用組合ガ發達シテ、一村ヲ一區域トスル信用組合ハ到ル處ニ在ル、而シテ其一方ニ行政ノ自治機關ト相俟ッテ、地方ノ開發ニ便利ヲ與ヘテ居ルノデアリマス、然ルニ其住民ハ組合ト取引ヲ致シ、又組合員ハ組合ヲ信ジテ居ル、然ルニ市町村役場、或ハ市役所等ハ其組合ヲ信用スルコトガ出來ナイ——出來ナイトハ云ヒマセヌケレドモ、此組合ヲ以テシテ、金庫事務ヲ取扱ハシムルコトハ出來ナイト云フノハ、恰モ市町村ガ信用組合ヲ信ジテ居ラヌカノ如キ形ニ見エルノデアリマス、ノミナラズ色々ト不便ガサリ、不利ガアリマスガ故ニ、ドウシテモ銀行モ金庫事務ヲ取扱ハシメ得ルト同時ニ、信用組合ニモ市町村金庫事務ヲ取扱ハシメ得ラルヽヤウニ、斯ウ改正スル必要アリト私ハ信ズルノデアリマス、ソレカラ其三ハ信用組合ノ區域擴張ノ件ガアリマス、御承知ノ通リ現行ノ產業組合ノ規定ニ依リマスルト、原則ト致シマシテ、信用組合ノ區域ハ一市町村ニ限ル、斯ウ云フコトニナッテ居リマス、特別ノ理由アル場合ニ於テハ、一町村以外ノ區域ノモノヲモ加入セシメル、斯ウ云フコトニ例外ハ出來テ居リマスガ、大抵ハ一市町村一區域ト云フコトニナル、又行政事務ヲ取扱ッテ居ル方面ニ於テモ、一町村區域ニ非ザレバ之ヲ許サヌ、斯ウ云フヤウナ方針ヲ執ッテ居ラレルノデアリマス、所ガ御承知ノ通リ、今日ハ經濟界ガ非常ニ膨脹致シマシテ、一町村一區域ノ信用組合ナドデハ、到底圓滑ニ敏活ニ農村金融、若ハ庶民金融ヲ運轉セシムルト云フコトハ出來ナイノデアリマス、餘リ小規模デアリマス、甚ダ爲濟ガマシイ話デアリマスルガ、日本ノ產業組合ノ組織ト云フモノハ、「ライフワンゼル」式ヲ採ッテ居ル、併ナガラ今日ニ於テハ「シュルツケイ」式ト云フ大規模ノ組織ニシナケレバナラヌト、斯ウ考ヘマシタガ故ニ、信用組合區域擴張ノ件トシテ、市町村區域トアルノヲ、郡市區域ヲ一區域トスル所ノ信用組合ヲ設置スルコトヲ得、斯ウ改正ヲ致スコトガ必要デアルト私ハ信ズルノデアリマス、其四ハ聯合組合統轄組織變更ノ件デアリマス、現行ノ產業組合法ニ依リマスルト、聯合會ガ他ノ聯合會ニ加入スルヲ得ズト斯ウナッテ居ル、例ヘバ一部落ノ信用組合其他ノ產業組合ガ一郡ヲ區域トスル聯合會ヲ拵ヘマシタ場合ニハ、ソレ以上ノ縣デ造ッテ居ル所ノ、產業組合ノ聯合會ニ加入スルコトガ出來ヌ、又縣區域ノ聯合會ヘ一ツノ產業組合ガ加入シタマ場合ニハ、一郡ノ聯合會ニ加入スルコトガ出來ナイ、斯ウ云フコトニ相成ッテ居リマス、是ハ甚ダ產業組合ヲ統轄スル上ニ於キマシテ又庶民金融ヲ統一スル上ニ於キマシテ、不利不便ノ點ガ多イノデアリマス、故ニ現在ノ聯合會ハ普通的ニ活動スルコトガ出來ナイ、唯ダ形ダケアッテ、何等ノ仕事ヲシテ居ラヌ、斯ウ云フヤウナ狀態デアリマス、故ニ此際一ツノ聯合會ニ加入シタト雖モ、他ノ組合ニ加入スルコトガ出來ルト同時ニ、又聯合會ト雖モ、更ニ其上級ノ聯合會ニ加入スルコトガ出來ル、斯ウ云フコトニ改正スル必要アリト本員ハ信ズルノデアリマス、是ダケデアリマス、ドウカ社會政策ノ上カラ御同情致サレマシテ、滿場ノ御贊成アランコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス、

（拍手起ル）

○議長（奧繁三郎君）　岩崎勳君

○岩崎勳君　日程第十七及第十八ノ兩案ハ一括シ、議長指名ヲ以テ、九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕

○議長（奥繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（奥繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス――日程第十九、非役壯丁稅法案ノ第一讀會ヲ開キマス――提出者荒川五郎君

第十九　非役壯丁稅法案（荒川五郎外三名提出）　第一讀會

非役壯丁稅法案

非役壯丁稅法

第一條　帝國臣民ニシテ常備兵役ニ服セサル男子ハ本法ニ依リ非役壯丁稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條　非役壯丁稅ハ第一種第二種ノ二ト三十

第一種非役壯丁稅ハ左ノ稅率ニ依ル

一　第三種所得稅ヲ納ムル者ハ其ノ稅額ノ百分ノ二十

二　前號以外ノ者ハ二圓トス

第二種非役壯丁稅ハ第一種非役壯丁稅ノ半額トス

第三條　前條第二項第一號ノ課稅標準ト爲スヘキ第三種所得稅額ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ算定ス

一　納稅義務者カ戶主ナル場合ニ於テハ本人ノ納ムル第三種所得稅ノ金額ニ依ル

二　納稅義務者カ家族ナル場合ニ於テハ本人ノ納ムル第三種所得稅ノ金額ト戶主ノ納ムル第三種所得稅ノ半額トヲ合算シタル金額ニ依ル

前項ノ第三種所得稅額ハ納稅義務發生ノ年一月一日現在ノ前年度稅額ニ依ル

第四條　徵兵身體檢查ニ合格セサル者及補充兵役又ハ國民兵役ニ編入セラレタル者若ハ徵集ヲ延期セラレタル者ニシテ其ノ現役ニ服セサルコト又ハ教育召集ニ應セサルコトノ確定シタル者ハ其ノ翌年ヨリ七箇年間第一種非役壯丁稅ヲ納付スヘシ

第五條　現役ニ服シタル者又ハ教育召集ニ應シタル者ニシテ故意ニ免除ノ事故ヲ生セシメタル者ハ其ノ翌年ヨリ七箇年間第一種非役壯丁稅ヲ納付スヘシ

第六條　補充兵ノ教育召集ニ應シタル者ハ召集解除ノ翌年ヨリ六箇年間第二種非役壯丁稅ヲ納付スヘシ

第七條　左ニ揭ク者ハ徵兵適齡ニ達シタル翌年ヨリ起算シ七箇年ニ達セサルトキハ其ノ殘期間第二種非役壯丁稅ヲ納付スヘシ但シ徵集ヲ延期セラレタル後兵籍ニ入リタル者ニ在リテハ其ノ服役ノ翌年ヨリ起算ス

一　現役中六箇月ニ滿タスシテ補充兵役若ハ國民兵役ニ編入セラレタル者

二　第二十二條ニ揭ク者ニシテ兵籍ヲ離レ前號ニ該當スル者

前項ノ殘期間ハ補充兵役又ハ國民兵役ニ編入セラレ若ハ兵役ヲ免セラレ又ハ兵籍ヲ離レ若ハ現役ニ服セサルコトノ確定シタル年ヲ算入セス

第八條　現役中又ハ補充兵部隊編入中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ役ヲ免セラレタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ非役壯丁稅ヲ課セス

第九條　納稅義務者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ爾後ノ納期ニ屬スル分ヨリ非役壯丁稅ヲ免除ス

一　戰時又ハ事變ニ際シ召集ニ應シタルトキ

二　死亡シタルトキ

第十條　納稅義務者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ非役壯丁稅ヲ免除ス

一　瘡疾不具ノ者

二　貧民トシテ公ノ救助ヲ受クル者

第十一條　一家二人以上同時ニ納稅義務者ナルトキハ一人ヲ除クノ外他ノ者ハ其ノ半額ヲ免除ス

第十二條　納稅ノ義務ヲ有スル者ハ納稅義務發生ノ年一月中ニ其ノ本籍住所及兵役關係ヲ列記シテ政府ニ申告スヘシ戶主ニ非サルトキハ戶主ノ氏名及住所ヲモ併セテ申告スヘシ

納稅義務者又ハ其ノ戶主第三種所得稅ヲ納ムル者ナルトキハ前項ノ外每年一月中ニ第三條第二項ノ規定ニ依ル所得稅額及其ノ他課稅ノ算定ニ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スヘシ

第十三條　第八條乃至第十一條ニ該當スル者ハ本人又ハ其ノ戶主ヨリ其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ

第十四條　政府ハ每年四月中ニ各納稅義務者ノ納稅額ヲ查定シ之ヲ本人又ハ其ノ戶主ニ通告スヘシ

第十五條　納稅義務者前條ノ納稅額ニ對シ異議アルトキハ其ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ申出其ノ審查ヲ請求スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セス

第十六條　前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ審查委員會ノ審查ニ付シ其ノ決定ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ但シ政府ニ於テ該請求ヲ理由アリトスルトキハ審查委員會ノ議ニ付セスシテ直ニ第十四條ノ通告ヲ訂正スヘシ

審查委員會ノ組織及會議ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　前條ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十八條　非役壯丁稅ハ年額ヲ二分シ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期　其ノ年七月一日ヨリ三十一日限

第二期　翌年一月一日ヨリ三十一日限

第十九條　納稅義務者家族ナル場合ニ於テハ戶主ハ非役壯丁稅ノ納付ニ付連帶シテ其ノ責ニ任ス

第二十條　非役壯丁稅ハ納稅義務者ノ住所地ヲ以テ納稅地トシ住所ナキトキハ居所地ヲ以テ納稅地トス但シ住所地以外ニ在ル納稅義務者ハ申告シテ居所地ニ於テ納稅スルコトヲ得本法施行地內ニ住所又ハ居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スヘシ申告ナキトキハ本籍地ヲ以テ納稅地トス

第二十一條　納稅義務者納稅地ニ現住セサルトキハ非役壯丁稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅代理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第二十二條　陸海軍ノ將校、同相當官、特務士官、豫備員、准士官、候補生、見習官、下士及兵籍ニ編入セラレタル學生、生徒ニハ其ノ在籍中本法ヲ適用セス但シ第七條ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　徵兵事務ヲ掌ル官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ非役壯丁ニ關スル事項ヲ收稅官廳ニ報告スヘシ

第二十四條　第十二條第二十一條ノ申告ヲ爲サス又ハ虛僞ノ申告ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第二十五條　非役壯丁稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫金額三倍ノ科料ニ處ス

第二十六條　北海道府縣市區町村其ノ他ノ公共團體ハ非役壯丁稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ施行ノ年以後徵兵適齡ト爲リタル壯丁及本法施行ノ年ニ於テ現ニ徵集ヲ延期セラレタル者ヨリ之ヲ適用ス

本法ハ徴兵令ヲ施行セサル地方ニハ之ヲ施行セス但シ本法施行地内ニ本籍ヲ有スル者ハ本法施行地外ニアルモ仍本法ヲ適用ス

〔荒川五郎君登壇、拍手起ル〕

○荒川五郎君　非役壯丁税案提出ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマスガ、我ガ帝國憲法ハ、國民ニ命ズルニ兵役ノ義務ヲ以テシテ、國民皆兵ノ主義ヲ確立致シテ居リマス、兵役義務ハ、實ニ何者ヲ以テシテモ代ヘルコトノ出來ナイ國民最高ノ義務デアリマス、同時ニ又此最高義務ヲ實行致シテ、奉公ノ責ヲ全ウスルコトヲ、國民ノ最大ノ名譽ト致シテ居ルノデアリマス、然ルニ國防ニ要スル兵員ハ、其數ニ自ラ一定ノ制限ガアリマシテ、全國ノ壯丁ガ悉ク之ニ當ルコトハ出來マセヌ、身體上ノ關係ヨリ不合格ニナル者ヲ除イテモ、他ニ要員ノ超過ト云フ爲メニ、兵役ヲ免除セラルヽ者ガ多イノデアリマス、實際兵役義務ニ服スルノハ、凡ソ全國四十万ノ壯丁ノ中、僅ニ其四分ノ一十万内外ニ過ギナイノデアリマス、其十万ノ服役壯丁ヲ除イテ、服役シナイ壯丁、即チ非役壯丁ニ對シテ、其人トソレ〳〵ノ身代ニ應ジテ相當ノ課税ヲ致シテ、其收入ヲ以テ軍人ノ優待、癈兵ノ優遇、其他總テ軍人軍務ニ關スル必要ノ費用ニ充テタイト思フノデ、既ニ今日モ軍人恩給ノ增額其他ノ議案ガ政府カラモ提出セラレ、又同僚議員カラモ出テ居ルノミナラズ、諸願其他ニモ軍人癈兵等ニ對スル優待ノ希望ガ澤山出テ居リマス、殊ニ癈兵其他ノ優遇ノコトハ問題ニナッテ居ルノデアリマス、此壯丁税ノ收入ヲ以テ、其等ノ費用ニ充テルト云フコトハ、實ニ一擧兩得デアルト考ヘマシテ此案ヲ組立テタ次第デアリマス、而シテ此税法ハ昔シ行ハレタ金錢ヲ以テ兵役ニ代ヘルト云フ代償税トカ、或ハ免役税トカ云フモノトハ、全ク其根本ノ精神ヲ異ニ致シテ居リマス、免役税トカ代償税トカ云フノハ、金錢ヲ拂フト否トヲ以テ、兵役ヲ免ストカ免サヌトカ云フ前提ト致シマスガ、今此壯丁税ナルモノハ、兵隊ニ當カ當ラヌカト云フコトヲ、納税義務ノ前提ト致スノデアリマス、斯様ニ全ク根本ニ於テ其趣意精神ヲ異ニ致シテ居リマスルカラ斷ジテ我ガ基本的國民精神ニ、何等ノ影響ヲ與ヘルモノデナイバカリデハアリマセヌ、徴兵忌避者ヲ戒メ、兵役義務ノ完全ニ行ハルヽコトヲ奬勵致シマシテ、國民皆兵ノ精神ノ上ニ一歩ヲ進メテ、其完成ヲ期スルモノデアリマス、然ルニ是マデ一部ノ論者ハ、之ヲ代償税ト同ジヤウニ、此兵役税ヲ起セバ、國民精神ノ上ニ宜シクナイ影響ヲ來スカノヤウニ云フ人ガアルノデアリマス、是ハ全ク趣意ヲ異ニシテ居ルモノデアリマスルガ、併シ今日ノ現行ノ制度ニ於テハ、一面ニハ代償ノ性質ヲ有ッテ居ル法制ガアルノデアリマス、ソレハ何カト申セバ一年志願兵ノ制度デアリマス、一年志願兵ノ制度ハ均シク其志願兵ニナル資格ヲ有ッテ居ッテモ、或ル幾分ノ財產ヲ提供スルコトガ出來ナイ者ハ、一年志願兵ノ特典ヲ受クルコトガ出來ナイデ、普通ノ兵役ニ服セナケレバナラヌ、僅ナル此金錢ヲ出シ得ル者ハ、一箇年ノ志願兵トシテ服務ガ濟ムノミナラズ、更ニ在鄉軍人ノ幹部トナリ、種々ノ名譽ヲ得ラルヽノデアリマス、其費金ヲ納ムル能ハズシテ、普通兵役ニスル者ヨリシテ見レバ、其差ハ即チ代償ノ性質ヲ有ッテ居ルノデアリマス、既ニ今日ノ制度ノ上ニ斯ル代償ノ性質ガアルニモ拘ラズ、此兵役税ヲ拒ムト云フコトハ、全ク意義ヲ成サナイ事ト思フノデアリマス、切ニ國民皆兵ノ精神ヲ貫徹スル上ニ、殊ニ今日軍人ノ待遇ガ菲薄デアリ、ソレニ相當ナル待遇ヲ與ヘル方法ヲ求ムル上ニ於テモ、諸君ノ御一考ヲ願ヒタイノデアリマス、兵役ニ當ル者ハ壯丁ノ僅カ四分ノ一、其等ノ人ノ犧牲ハ如何ニ大デアリマスカ、先ヅ入營前ニ職業ニ就テ居ル者ハ、其職業ヲ中斷セラレナケレバナラヌ、兵役ヲ二年勤メタ後在鄉軍人トナッテモ、或ハ點呼、召集、其他旅行等ニモ制限ガアル、在鄉軍人トシテモ義務ガアル、況ヤ一朝緩急アル場合ニハ、我ガ家ヲ棄テ妻子ヲ棄テ、國難ニ赴カナケレバナラヌ重大ナル務ヲ有ッテ居ルノデアリマス、然ルニ一方不合格者若ハ抽籤ニ免レタ者ハ、ソレ以來ハ何等ノ義務ガ無イ、而シテ其兵役ヲ免ルヽ者ハ、多クハ上流富豪ノ者デアリマス、今日ノ實際ニ於テモ、農村カラハ十分ノ四位丼ノ者ガ兵役ニ取ラレ、都會地デハ十分ノ二ニ及バナイ位丼デアリマス、兵役ノ大部分ハ地方農村ノ小前ノ者、小身ノ者ガ負ウテ居ルト云ウテモ宜イノデアリマス、此點カラ申シテモ、實際ノ有樣ハ所謂富者ニ厚イ、富者ニ幸セラルヤウナ傾キニナッテ居ルノデアリマス、殊ニ凡ソ人ト云フモノハ感情ノ動物デアリマスカラ、一方ニハ兵役ノ義務ニ服シテ、嚴格ナル規律ノ下ニ束縛ヲ受クルニモ拘ラズ、一方ニハ非常ニ自由ニ暮シテ居ル我ガ學友、友人等ノ多クヲ思フ時ニハ、自然ニ其人ノ心理狀態ニ好イ感ジヲ起サセナイノデアリマス、斯様ナ事カラ、自然ニ思想ノ上ニモ好イ影響ヲ與ヘナイノデアリマシテ、自然ニ危險不熟ノ思想ヲ抱ク者ガ出テ來ルヤウナコトガアリマシテ、ソレガ爲メニ時ニ兵役中ニ於テモ、所謂非國民ノ如キ者ヲ此我ガ忠勇無二ノ日本國民ノ中ニ出スコトガアルト云フコトハ、甚ダ以テ遺憾トシナケレバナラヌノデアリマス、デ斯ウ云フ譯デアリマシテ、凡ソ此兵役ハ、兵役ニ服スル其者自身ノ兵役デハナイ、國民共同ノ兵役デアルノデアリマスカラ、彼等壯丁ガ骨ヲ碎キ身ヲ粉ニシテ、サウシテ國家ノ爲メニ働キツヽアルト云フコトヲ、其者ハ自己ノ名譽ノ大ナルヲ自覺シテ勤メマスト同時ニ、此服役ニ當ラナイ者ハ、服役壯丁ノ名譽ニ對スル十分ナル尊敬ト其犧牲ニ對スル多大ノ同情ヲ惜マヌノガ、日本國民性ノ眞髓ト考ヘルノデアリマス、隨ッテ其兵役ヲ免レタ者ハ、自ラ此大事ナ義務ノ一部ニ當リ得ナカッタコトヲ遺憾トスルノデアリマスカラ、其者ニ對シテ相當ノ課税ヲ致シテ、自分等ノ財產物的ノ上デハアルケレドモ、其僅カノ力ガ彼等壯丁ノ給與ヲ裕カニシ、待遇ヲ好クシテ、幾ラカ彼等ニ精神上ノ慰安ヲ與ヘ、滿足ヲ與ヘルト云フコトヲ思ヘバ、即チ非役壯丁ノ義務心ヲ滿足セシムル所以デアルト思フノデアル、斯ノ如クニシテ始メテ國民皆兵ノ精神ヲ完ウスルコトガ出來ルト思フノデアリマス（拍手）然ルニ今日ノ有樣ニ於テハ、兵役ヲ免レル中ニハ、兵役ヲ免レルガ爲メニ身體ノ脆弱テアリ、身體ニ缺損ノ幾ラカアルト云フコトヲ、奥フト云フ徒輩ガ無キニシモ非スデアリマス、我ガ國民ヲシテ皆ナ勇武强健ニ義勇奉公ノ精神ヲ涵養シ、發達セシメテ、國民ヲシテ大ニ與國的氣分ヲ養ハシムルト云フコトハ、此税法ヲ設ケテ、一面ニ此國民ノ重要ナル名譽ニ當リ得ナイコトヲ遺憾トシ、ソレヲ恨事トスルト云フヤウナ一般ノ氣風ヲ養成致シマシテ、國民一般ヲシテ勇武强健ナラシメ、尚ホ武奉公ノ精神ヲ普及セシメテ、以テ國民皆兵ノ精神ヲ貫徹致シタイト云フノガ本案提出ノ理由デアリマス、何卒各位ノ御贊同ヲ希望致シマス（拍手起ル）

○岩崎勳君　本案ハ議長指名ヲ以テ、九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕

○議長（奥繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（奥繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス——日程第二十著作權法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者鳩山一郎君

第二十　著作權法中改正法律案（鳩山一郎君提出）　第一讀會

著作權法中改正法律案

著作權法中左ノ通改正ス

第二十二條ノ二　音樂的著作物ヲ機器的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ自己又ハ他人ノ著作物ヲ寫調シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著作者ノ權利ハ之カ爲ニ妨ケラルヽコトナシ

〔鳩山一郎君登壇、拍手〕

○鳩山一郎君　簡單ニ本案提出ノ理由ヲ述ベマス、我國ノ現行法ニ於キマシテハ、蓄音機ニ吹込ンデ「レコード」ヲ造ルト云フコトニ就テハ、何等ノ保護ノ規定ガ無イノデアリマス、是ニ於テカ苦心ヲ致シマシテ、蓄音機ニ吹込ンデ「レコード」ヲ造ッタモノガ容易ニ摸寫複製サレルノデアリマス、此事ハ不正ノ競爭ヲ一方ニ於テ誘發スルト同時ニ、優良ナル蓄音機盤ノ發達ヲ阻止スルモノデアリマス、飜ッテ外國ノ例ヲ見マスルト、何レノ國ニ於テモ此事ヲ保護シテ居ル、蓄音機ニ吹込ンデ「レコード」ヲ造ルト云フコトハ、卽チ音樂的技術ト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、著作權法二十一條二十二條等ノ規定ト比較シマシテモ、勿論ノ事デアリマスカラ、御贊成ヲ願ヒタイト思フノデアリマス（拍手）

○岩崎勳君　本案ハ議長指名ヲ以テ、九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長（奧繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（奧繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第二十一、刑法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者宮古啓三郎君

第二十一　刑法中改正法律案（宮古啓三郎君外五名提出）　第一讀會

刑法中改正法律案

第百九十六條ノ二　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ恐嚇又ハ詐言ヲ用ヒタルトキハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔宮古啓三郎君登壇、拍手〕

○宮古啓三郎君　簡單ニ此法案提出ノ理由ヲ申述ベマス、此法案ハ極メテ簡單ナ條文デアリマスカラ、之ヲ見テ其趣ハ、勿論分ルノデアリマス、要スル所ハ人權蹂躙ヲ豫防シタイト云フ趣意ニ出デ、居ルノデアリマス、第三十五議會ニ於キマシテ、此法案ト同一ナル法案ヲ本員等カラ提出致シマシテ、殆ド滿場一致ヲ以テ通過致シマシタ、其次ノ第三十六議會ニ於キマシテ、高木益太郎君等ヨリ同一ノ法案ヲ提出ニ相成リマシテ、其當時ニ於テ又全會一致ヲ以テ當院ヲ通過致シテ居リマス、其後ニ第四十議會ニ於テ是ト類似ノ法案ガ出テ居リマシテ、ソレモ亦殆ド全會一致デ通過致シタノデアリマス、何レモ貴族院ニ於テ遺憾ナガラ議了ニ至ラナカッタノデゴザイマスルガ、併ナガラ如何ニ此法案ガ當院ノ希望スル所デアリマシテ、國民ノ要求ニ出デ、居ルカト云フコトハ、之ヲ以テモ分ルト存ズルノデアリマス、申スマデモナク人權ナルモノハ、人間ノ有シテ居リマスル所ノ權利ノ中デ第一番ニ重要ナルモノデアル、此人權ガゴザイマセヌケレバ人間ハ無イノデアル、又勿論立憲政治ナルモノモ無イノデアリマス、ソレデアリマスカラ、此人權ナルモノハ、決シテ之ヲ財產權ヤ其他ノ權利ト、同視スルコトノ出來ナイモノデアルト云フコトハ、申スマデモナイノデアリマス、或ハ謂レナク拘禁ヲサレタリ、或ハ罪ナクシテ牢獄ニ投ゼラレタリスルヤウナコトガゴザイマスレバ、人間トシテ到底堪ヘ得ルコトデナイコトハ、申スマデモゴザイマセヌ、一旦此人權蹂躙ニ會ヒマシタ者ハ、必ズ其心理狀態ニ變狀ヲ來シマス、其變狀ヲ來シマシタ結果ガ、動モスルト危險思想ヲ帶ビルコトニナル、終ニハ國家ヲ呪詛スルヤウナ結果ニ陷ルノデアリマス、サレデアリマスルカラシテ、此點ニ就テハ、最モ爲政者トシテハ注意シナケレバナラヌ筋合ノモノデアルコトハ、私ノ申スマデモナイ事デアリマス、三十一議會ニ於キマシテ、當院ニ於テ豫算ヲ議定致シマスル際ニ、政府ニ向ッテ一ツノ希望條件ヲ附シテ居ッタコトガゴザイマス、其警告文ガ斯様ニナッテ居リマス、「檢事其ノ職務ヲ執行スルニ方リ往々苛酷ニ流レ法規ニ違反シ人權ヲ蹂躙スルノ事例少ナカラス今ニ於テ之ヲ矯正セスンハ司法權ノ威信ヲ維持スル能ハサルノミナラス國家組織ノ基礎ニ危害ヲ及ホスノ虞アルモノト認ム司法大臣ハ嚴ニ部下ヲ監督シテ司法行政ノ刷新ヲ圖リ將來人權尊重ノ實ヲ擧ケンコトヲ望ム」、是ハ既ニ古イ第三十一議會ニ於テ當院ガ決議致シタ所デアリマス、其當時ニ於キマシテモ、勿論甚ダ人權蹂躙ノ聲ガ聞エマスルニ依テ、斯ノ如キ希望條件ヲ附シタノデアリマス、然ルニ其後今日ニ至ルマデ、不幸ニシテ未ダ此希望條件ナルモノハ、實行サレテ居ラヌノデアリマス、寧ロ益々人權蹂躙ノ聲ガ聞エルヤウニナッテ居ルノデアリマス、京都事件ノ如キハ卽チ其一ツデアリマシテ、其結果ト致シマシテ、過般官報ニ載ッテ居リマシタ通リ四名ノ檢事ガ譴責ヲサレテ居リマス、又一名ノ檢事長ハ、之ガ爲メニ引責辭職ヲシテ居ルト云フヤウナ有樣デアリマス、是皆ナ人權蹂躙ノ結果ニ外ナラヌノデアリマス、大木司法大臣ハ、過日貴族院ニ於キマシテ、湯淺倉平君ノ人權蹂躙ニ關スル質問ニ對シマシテ、ソレニ答ヘマシテ、政府ニ於テ大ニ檢察事務ノ改善向上ヲ圖ッテ居ル、目下大ニ努力シツヽアルト云フコトヲ明言致サレマシタ、本員等ハ固ヨリ之ヲ喜ブ者デアリマス、併ナガラ今日ノ人權蹂躙ハ既ニ因襲ノ久シキモノデアッテ、之ヲ無クスルト云フコトハ、甚ダ困難デアリマス、ソレデアリマスルカラシテ、唯ダ行政處分ノミヲ以テ之ヲ矯正スルト云フコトハ、容易ニ出來ナイト私共ハ考ヘルノデアリマス、デ根本的ニ之ヲ改善シナケレバナラナイ、是ヨリ以後ニ於キマシテハ、人權蹂躙杯ト云フ聲ハ聞エナイヤウニ致サナケレバナラナイ、國家ノ不祥事デアル所ノ斯ノ如キ人權蹂躙杯ト云フヤウナモノハ、無イヤウニシナケレバナラヌノデアリマスガ、ソレニ就キマシテハ、十分ナル手段方法ヲ施サナケレバナラヌモノデアラウト思フノデアリマス、此法律案ハ固ヨリ之ノミヲ以テ、人權蹂躙ヲ全部防ギ得ルトハ吾ヽモ考ハ致シマセヌケレドモ、併ナガラ今日マデノ實例ヲ見マスルト云フト、此法案ヲ以テマシテ、大部分ハ之ヲ防ギ得ルト考ヘルノデアリマス、是ガ卽チ此短期議會デアルニモ拘ラズ、洵ニ焦眉ノ急デアリマスルカラ、玆ニ提案ヲ致シマシタ次第デアリマス、終リニ貴族院ニ向ッテノ希望ヲ一言申シタイト思ヒマス、當院ハ唯今申シマシタ通リ、三回モ通過シテ居ルノデアリマスカラ、貴族院ニ於キマシテモ、本年ハ此當院ノ希望、國民ノ要求ヲ容レテ、是非可決セラルヽヤウニ願ヒタイト思ヒマス、又政府ニ對シマシテハ、今日ノ狀態ハ、非常ニ之ヲ必要トスルコトニ相成ッテ居ルノデアリマスカラ、潔ク之ニ贊成セラレンコトヲ希望スルノデアリマス

○岩崎勳君　本案ハ議長指名ヲ以テ、九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長（奧繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（奧繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十二葉煙草罹災補償ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者久木田叶君

第二十二　葉煙草罹災補償ニ關スル建議案（菰亮君外四名提出）

葉煙草罹災補償ニ關スル建議案

葉煙草罹災補償ニ關スル建議

葉煙草ハ一般耕作物ニ比シ多額ノ肥料ヲ要スルニ拘ラス其ノ生育中暴風雨ノ被害ヲ受クルコト多ク其ノ甚シキニ至リテハ收穫皆無ノコト亦尠カラス故ニ政府ハ耕作奬勵ノ主旨ヲ貫徹スル爲相當ノ罹災補償法ヲ制定セラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔久木田叶君登壇〕

○久木田叶君　本員ハ葉煙草罹災補償ニ關スル建議案ニ就キマシテ、極メテ簡單ニ說明ヲ致サウト思フノデアリマス、葉煙草耕作ハ他ノ耕作ニ較ベマシテ、極メテ多大ノ肥料ヲ要スルノデアル、而モ丁度其生育期ニ於テ、暴風ノ時期デゴザイマスルガ爲メニ、時トシテハ之ガ暴風ノ爲メニ全滅ニ歸スルコトガアルノデアリマス、ソレニ就キマシテ、一二參考ノ爲メニ申上ゲテ置キタイ事ガアルノデゴザイマスルガ、第一葉煙草ノ耕作ハ、肥料ガ非常ニ多イノデゴザイマスルガ、之ガ反當リハ幾ラデアルカト云フコトヲ申シマスルト云フト、大正八年度ニ於テハ、反當リ八十圓五十三錢デアリマスル、九年度ニ於テ百二十圓七十九錢ト云フ、多大ノ費用ヲ見積ッテ居ルノデアリマス、尤モ此葉煙草ノ耕作ニ就キマシテハ、他ノ耕作ト違ヒマシテ、政府ハ非常ナ手强キ方法ヲ以テ勸誘奬勵ヲ致シテ居ルノデアリマス、如何ナル方法ヲ以テ勸誘致シテ居ルカト云フト、村ニソレ〳〵段別ヲ割當テマシテ、其割當テラレマシタ所ノ村ニ於テハ、ドウシテモソレダケノモノヲ耕作シナケレバナラヌノデアル、而モ其耕作致シマスルニ當ッテハ、ソレ〳〵耕作者ニ於テ其組合ナルモノヲ作ルノデアル、其組合ナルモノハ何ガ爲メニ作ルカト云フト、若シモ耕作者ニ於テ、自ラ作ッタ所ノ煙草ヲ摘喫ミスルト云フヤウナコトガゴザイマスル場合ニ於テハ、獨リ唯ダ其人ノミ罰ヲ與ヘルノデハナクシテ、殆ド連坐法ニ類シタ所ノ制裁ノ方法ガアルノデアル、仍テ組合員ノ一人ガ、組合ニ於テ二十人三十人、多キハ七八十名ノ組合ヲ組織致シテ居リマシテ、若シ其中ノ一名ガ違反致シタ場合ニ於テハ、八十名ノ組合員ガ總テ制裁ヲ受ケナケレバナラヌト云フ、苛酷ナル方法ヲ立テ、居ルノデアリマス、併ナガラ是ハ組合其モノニ於テ、自ラノ申合セテアリマスルカラシテ、政府ニ於テ何等關セヌト仰シヤレバソレマデノ事デゴザイマスケレドモ、併ナガラ耕作者ハ此耕作ニ際シテ、斯ル嚴シキ方法ヲ以テ耕作致シテ居ルノデアルニナラズ、此煙草作ガ、風害ハ勿論ノコト、蟲害、病害、色ミノ害ガアル、蟲害ニ至リマシテハ、耕作者ノ努力ヲ以テ其蟲害ヲ排除スルコトガ出來ル譯デアリマスケレドモ、此病害ニ至リマシテハ、中ミ困難ヲ致シテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク耕作者ニ於テモ、非常ニ此耕作ニ就テ努力致シテ居リ、非常ナル難儀ヲ致シテ居ルノニ、時ミ場合ニ於テハ、暴風ノ爲メニ全滅ト云フ不幸ヲ見ルノデアリマスカラシテ、政府ハ耕作奬勵ノ目的ヲ達スル上カラ、速ニ罹災補償法ヲ制定セラレマシテ、耕作者ノ安心ヲ圖ラレンコトヲ希望スルノデアリマス、聊カ……

○岩崎勳君　本案ハ議長指名ヲ以テ、九名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕

○議長（奥繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（奥繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス――日程第二十三ハ提出者カラ延期ノ申出ガアリマス、許シマス考デアリマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（奥繁三郎君）　異議ナイト認メテ許シマス――日程第二十四隈森宇鐵道建設ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者一宮房治郎君

第二十四　隈森宇鐵道建設ニ關スル建議案（一宮房治郎君外二名提出）

隈森宇鈴道建設ニ關スル建議案

隈森宇鐵道建設ニ關スル建議

一熊本縣菊池郡隈府町ニ起リ大分縣日田郡津江村及熊本縣阿蘇郡小國村竝大分縣玖珠郡森町ヲ經テ宇佐郡四日市町ニ至ル鐵道

本鐵道ハ產業ノ開發上緊急缺クヘカラサル線路タルノミナラス表裏九州ノ聯絡上最必要ナル鐵道ニシテ軍事上亦裨益スル所尠カラス故ニ政府ハ速ニ本鐵道ノ建設ニ著手セラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔一宮房治郎君登壇、拍手〕

○一宮房治郎君　簡單ニ提案ノ理由ヲ說明致シマス、本鐵道ハ熊本縣菊池郡隈府町ニ起リマシテ、兵戸峠ヲ過ギテ、大分縣ニ入リマシテ、日田郡津江村、及熊本縣阿蘇郡小國村、竝ニ大分縣玖珠郡森町ヲ經テ、陸軍演習地ノ今宿ヲ經テ大分縣宇佐郡四日市町ニ至ル、約六十哩ノ鐵道デアリマス、本鐵道ハ豐腕線ノ比較線ト致シマシテ、豫テ鐵道院ニ於テ踏査シタコトノアル鐵道デアリマス、又西海鐵道トシテ、私立會社ヲ設ケルガ爲メ既ニ、ニ實査ヲ致シテ見マシタ鐵道デアリマス、本鐵道ノ經過シマス土地ハ、腕後ノ富源ト稱ヘラレテ居リマス、廣袤十七哩ノ平原ヲ有スル、小國鄉及九州ノ吉野ト申シマシテ、山林ノ最モ豐富デアル所ノ津江村、或ハ九州陸軍ノ全演習地ト稱セラレル所ノ今宿、是等ノ地方ヲ經過致シテ居ル鐵道デアリマシテ、產業ノ開發上非常ニ有利ナル所ノ鐵道デアリマスノミナラズ今宿ノ演習地ヲ經過致シテ居リマスルガ爲メニ、軍事上ニ於テモ、亦裨益ノ尠カラザル所ノ鐵道デアリマス、第四十二議會ニ於テ、本鐵道ノ一部デアリマス所ノ所謂菊池郡ノ隈府カラ致シマシテ、大分縣ノ森町ニ至ル鐵道ハ、原田十衞君外數名ニ依ッテ建議案トシテ提出致サレタノデアリマス、而シテ本院ニ於キマシテモ、可決ニナッテ居ルヤウナ次第デアリマス、冤ニ角北九州ノ富源ヲ開發致シマス爲メニ、又產業ノ開發ヲ增進致シマスルガ爲メニ、最モ必要ナル鐵道デアルト云フコトハ、鐵道院其他ニ於テモ、既ニ認メラレテ居ル所デアリマス、就キマシテハ何卒各位ノ御贊成ヲ得マシテ、政府ニ於テ速ニ此鐵道ノ建設ニ著手スルヤウニ、希望致シタイモノデアルト思フノデアリマス、簡單ニ提出ノ理由ヲ申述ベマス、（拍手）

○岩崎勳君　本案ハ議長指名ヲ以テ、特ニ十八名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕

○議長（奥繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（奥繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス――日程第二十五、日南東部鐵道建設ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者長峰與一君

第二十五　日南東部鐵道建設ニ關スル建議案（長峰與一君外三名提出）

日南東部鐵道建設ニ關スル建議案

日南東部鐵道建設ニ關スル建議

一宮崎縣下宮崎ヨリ內海、飫肥及油津ヲ經テ福島ニ達スル鐵道

本鐵道ハ產業ノ發展ニ資シ交通ノ不備ヲ補フ爲急設ヲ要スルモノト認ム依テ政府ハ速ニ本線ノ建設ニ著手セラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔長峰與一君登壇、拍手〕

○長峰與一君　本建議案ニ現レマシタル鐵道ハ、宮崎縣下宮崎ヨリ內海ヲ經テ、飫肥油津ヲ經過致シマシテ、福島ニ達スル鐵道デアリマス、宮崎縣ハ天與ノ富源ニ富ンデ居リマスコトハ、他ノ何レノ地方ヨリモ優レテ居ルノデアリマス然ルニ開發ノ遲々タル所以ハ、全ク鐵道ノ開設ノナキ故デアリマス、故ニ是等關係地方ハ、鐵道ノ建設ヲ切望シテ已マザル次第デアリマス、御承知ノ通リ宮崎縣ハ、皇祖發祥ノ靈地デアリマシテ、皇室ニ於カセラレテモ、特ニ御注意ノ深キ點ガアルノデアリマス　天皇陛下ガ未ダ皇太子デ在ラセラレル際ニモ、行啓ノ光榮ヲ仰イダノデアリマス、又本年三月皇太子殿下ノ更ニ再ビ、此建議案ヲ出シマシタ地方ニ、行啓ノ光榮ヲ得タノデアリマシテ、縣民其光榮ニ感激致シ

テ居リマスト同時ニ、交通ノ不備ナル點ニ於テ恐懼ヲ措ク能ハザル次第ガ多々アッタノデアリマス、仍テ吾ゝ縣民ハ、一日モ鐵道ノ建設ヲ速ニ致シ、皇祖發祥ノ靈地タル意義、竝ニ　皇祖ノ偉業ノ發揚ニ努メルコトヲ、切實ニ希望致シテ居ル次第デゴザイマスル、故ニ政府竝ニ國民モ此點ニ注意スルコトハ、最モ必要ナルコト、感ズル次第デアリマス何卒滿場各位ノ一致ノ贊成ヲ得マシテ、御協贊アランコトヲ希望スル次第デアリマス(拍手)

○岩崎勳君　本案ハ前ノ日程第二十四、一宮房治郎君外二名提出ノ、隈森宇鐵道建設ニ關スル建議案ノ委員ニ、併セテ付託サレンコトヲ望ミマス

〔「贊成々々」ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君)　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君)　異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス——日程第二十六、福山三次間輕便鐵道速成ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者永屋茂君

第二十六　福山三次間輕便鐵道速成ニ關スル建議案(永屋茂君外三名提出)

福山三次間輕便鐵道速成ニ關スル建議案

福山三次間輕便鐵道速成ニ關スル建議

廣島縣深安、蘆品、甲奴、比婆、雙三諸郡ハ地域廣ク人口多ク物産亦豊富ニシテ所謂中國ノ中部ニ位スト雖未タ鐵道ノ便ヲ得ス依テ福山市ヨリ起リ現ニ私設ニ係ル線路(十四哩)ニ依リ府中ニ至リ更ニ上下ヲ經テ三次ニ達スル線路(三十五哩)ヲ速ニ政府ニ於テ敷設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔永屋茂君登壇、拍手〕

○永屋茂君　私ハ福山三次間輕便鐵道速成ニ關スル建議案ニ就テ、簡單ニ之ガ提出理由ヲ說明致シマス、此鐵道ハ廣島縣ノ深安郡、蘆品郡、甲奴郡、比婆雙三ト云フ諸郡ヲ貫通スル所ノ鐵道デアリマシテ現ニ福山市ヨリ起リマシテ、府中ニ至リマスル十四哩間ハ、私設鐵道ガ設ケラレテアルノデアリマス、此私設鐵道ニ依リ途中ヨリ更ニ甲奴郡上下ヲ經テ、比婆郡雙三郡ヲ通過シテ、雙三郡三次町ニ達シマスル三十五哩ト云フモノヲ、速ニ政府ニ於テ敷設セラレンコトヲ望ムノデアリマス、是等ノ地方ハ所謂中國ノ中部ニ位シテ居リマシテ、地域極メテ廣ク人口モ亦多ク、物産モ亦豊デアルノデアリマス、ソレ故ニ鐵道ノ敷設ハ當ニ速ニ之アルベキモノデアッタノデアリマスルガ、不幸ニシテ今日マデ是ガ敷設ヲ見ナイノデアリマス、之ガ爲メニ交通ハ不便、人文ノ進歩ノ上ニ、又產業ノ發展ノ上ニ、其他軍事用兵ノ上ニ遺憾少カラザルモノガ多々アッタノデアリマス、故ニ本案ヲ提出シテ速ニ政府ニ於テ是ガ敷設ヲセラレンコトヲ望ム次第デアリマス(拍手起ル)

○岩崎勳君　本案ハ議長指名ヲ以テ特ニ十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(奥繁三郎君)　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君)　異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○岩崎勳君　再ビ議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、乃チ茲ニ豫算關係ノ法律案タル政府提出、國債整理基金特別會計法中改正法律案、政府提出、家祿賞典祿處分法施行法中改正法律案、政府提出、鐵道國有法中改正法律案、政府提出、京釜鐵道買收法中改正法律案、此四條ヲ一括議題トシ、其第一讀會ヲ開キ、政府ノ說明ヲ求メ、之ヲ審議シ、引續キ其審査ヲ付託スベキ委員ノ選擧ヲ行ハレンコトヲ望ミマス

○議長(奥繁三郎君)　岩崎君ノ緊急動議ニ異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(奥繁三郎君)　異議ナイト認メマス、仍テ日程ハ變更サレマシタ、唯今岩崎君ヨリ發議ニナリマシタ四條ヲ一括議題トナシ、其第一讀會ヲ開キマス——神野政府委員

國債整理基金特別會計法中改正法律案(政府提出)　第一讀會

國債整理基金特別會計法中改正法律案

第五條　政府ハ國債ノ整理又ハ償還ノ爲必要ナル額ヲ限度トシ起債スルコトヲ得

附　則

大正五年法律第三十四號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前國債整理基金特別會計法ニ依リ發行シタル國債ノ元金ノ消滅時效ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

家祿賞典祿處分法施行法中改正法律案(政府提出)　第一讀會

家祿賞典祿處分法施行法中改正法律案

第五條　第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ公債ハ發行ノ年ヨリ五年据置キ其ノ翌年ヨリ五十年內ニ之ヲ償還ス

第六條　第二項ヲ削ル

附　則

本法施行前祿高整理ノ爲發行シタル公債ノ元金ノ消滅時效ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

鐵道國有法中改正法律案(政府提出)　第一讀會

鐵道國有法中改正法律案

第十五條　削除

第十六條　削除

第十八條中「第十六條」ヲ「第十四條」ニ改ム

附　則

本法施行前鐵道國有法ニ依リ發行シタル國債ノ元金ノ消滅時效ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

京釜鐵道買收法中改正法律案(政府提出)　第一讀會

京釜鐵道買收法中改正法律案

第十三條　削除

第十四條　削除

附　則

本法施行前京釜鐵道買收法ニ依リ發行シタル國債ノ元金ノ消滅時效ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

〔政府委員(神野勝之助君)登壇〕

○政府委員(神野勝之助君)　國債整理基金特別會計外三案ハ國債ノ整理統一ヲ圖ラウト云フノガ主タル趣意ト、一ツハ國債整理基金特別會計法ノ公債借換ノ手續ニ關スル規定、其他ヲ改正致シタイト云フノガ趣意デアリマス、卽チ整理基金特別會計法ハ第五條ノ借換ニ關スル規定ガ、餘リ窮屈ニナッテ居リマシテ、實行ガ殆ド不能デアルノデアリマスルカラ、之ヲ改正致シタイト云フノガ一ツデアリマスル、ソレト整理基金特別會計竝ニ家祿賞典祿處分法施行法、鐵道國有法、京釜鐵道買收法等ニ依リマシテ、發行セラレマシタル所ノ公債ハ、整理公債條例ヲ適用シテ其利拂期限竝ニ時效等ノ規定ハ整理公債條例ノ規程ニ

依ルト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、然ルニ整理公債條例ハ古イ規程デアリマシテ、時勢ニ適セナイノデアリマスルカラ、其適用ヲ廢シテ一般ノ國債ニ關スル規程ヲ適用シタイト云フノガ、改正案ノ趣意デゴザイマスル、御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

○議長（奧繁三郎君）　右四案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選擧ヲ議題ニ供シマス

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選擧

○岩崎勳君　緊急上程ニ係ル四案ヲ一括シ、政府提出國債償還資金ノ繰入ヲ爲サヾルコトニ關スル法律案外七件ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

（「賛成」「賛成」ト呼フ者アリ）

○議長（奧繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（奧繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十七、敦賀港擴張ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者河崎清君

第二十七　敦賀港擴張ニ關スル建議案

（河崎清君外七名提出）

敦賀港擴張ニ關スル建議案

敦賀港擴張ニ關スル建議

敦賀港ハ對岸ニ西伯利、朝鮮、滿蒙等ノ寶庫ヲ控ヘ世界交通幹線ノ要衝ニ當リ國家重要ノ港灣タリ殊ニ世界戰亂以來船舶ノ出入頓ニ激增シ輸出入貿易ハ戰前ニ十倍スルニ至レリ若夫レ對岸ノ秩序恢復シ相互ノ交通開始セラルヽニ至ラハ更ニ貿易ハ一層ノ隆興ヲ來タシ眞ニ世界有數ノ港灣タルニ至ルヘシ然ルニ現在ノ敦賀港ハ突堤ノ抱擁狹ク棧橋其ノ他陸上ノ施設甚タ不完全ニシテ到底此ノ要求ヲ滿タシ得ヘカラサルノミナラス現在ニ於テモ有形無形ニ尠カラサル不便ト損害トヲ來タシツヽアリ斯ノ如キハ帝國富ノ增進ヲ妨クルノミナラス國際上竝軍事上等閑ニ付スヘカラサル緊急事ナリトス依テ政府ハ速ニ本港擴張ニ關スル調査計畫ヲ立テ其ノ整備ニ著手セラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔河崎清君登壇、拍手起ル〕

○河崎清君　私ハ本案提出者ノ一人ト致シマシテ、茲ニ聊カ提出ノ理由ヲ申述ベタイト存ジマス、本港ハ日本海ニ於ケル歐亞連絡ノ唯一港灣デゴザイマシテ、西伯利方面ノ關門タル浦潮ニ對シ、又元山清津ヲ介シマシテ、滿蒙ノ連絡ニ於キマシテ、加之世界交通上ノ一大幹線ト致シマシテ實ニ對外的ノ樞要ナル地位ヲ占メテ居リマスルノミナラズ、而モ最モ最近ノ問題ト致シマシテハ、沿海州竝ニ薩哈嗹ニ關シマシテモ最モ注意ヲ拂ハレナケレバナラナイコトヽ考ヘマス、此港ハ海最モ深クシテ暗礁淺瀨ナク、吃水ガ如何ニ大ナル船舶ト雖モ、出入ガ自由ニ出來マシテ、又海底ノ地質ガ泥若クハ粗砂デゴザイマスル爲メニ、錨ヲ下スニ最モ適當致シテ居リマスル港デアリマスル、寔ニ帝國ノ北門トシテ我國港灣中ニ牽ニ觀ル所ノ良港ト存ジマス、本港ハ以前ヨリ北海、北陸、山陰ノ諸州ノ間ニ於キマシテ、貨客ノ運輸ノ便ガ疾ヨリ開ケテ居リマシタガ、明治十七年ニ御承知ノ柳ケ瀨隧道ガ開カレ、京阪地方トノ連絡ガ付キマシテ以來、二十九年ニハ特別輸出港ニ政府ヨリ指定サレマシタ、三十五年ニハ遞信省ノ命令航路ト致シマシテ、浦潮ニ向フ所ノ航路ガ開カレ、然ル所西伯利鐵道ガ全通致シマシテ、此日本ニ於キマスル所ノ歐亞連絡ノ直通定期航路ヲ開始スルコトニナリマシタガ、斯クシテ以來旅客貨物ノ集散ハ日ニ月ニ加ハリマシテ、僅ニ六箇年間ニシテ最早此敦賀港ノ面目ハ一新セザルベカラザル形勢トナッタノデアリマス、ソレガ爲メニハ政府ニ於テハ、明治四十年十月ニ港灣調査會ニ於キマシテハ、我國ノ國費ヲ以テ經營スベキ港ノ一ニ加ヘラレマシテ、四十二年ニハ議會ノ協贊ヲ以テ總テ國費ヲ以テ八十万圓ノ豫算ニテ、此敦賀港ノ改築ニ著手致シマシタ次第デアリマス、漸クニシテ大正三年此工事ガ出來マシテ、唯今現在ノ防波堤ガ百間ヲ延長致シ、又棧橋ハ片棧橋ト致シマシテ、百間ニ幅ガ三間八分ノモノヲ設ケマシテ、漸ク三千噸級ノ汽船ヲ二艘連結サセマスルコトガ出來ルノデアリマス、其二箇ノ「ヴイ」ヲ設置致シマシタコトハ、聊カ港灣トシテハ設備ガ稍〻整タ所ノ感ジモアリマシタガ、後年一年ト益〻貿易ノ發展進運ニ向ヒマスル爲メニ、既ニ此敦賀港ハ愈〻貨客ガ激增ヲ致シ、現場ニ於テハ著シキ狹隘ヲ告ゲマシテ、當面ノ急ニモ應ジ難イ有樣トナッテ居ルノデアリマス、誠ニ統計ニ依リマスト、單ニ浦潮ト敦賀港ノ往復ノ人員ノミデモ、大正六年度ニ於テ二万三百人、其浦潮ニ於ケル對外貿易ノミデモ、明治四十年ニ於テ僅ニ二百七十六万圓、四十一年ニ四百九十四万圓デアリマシタガ、歐洲戰亂開始ト共ニ此當時ニ於キマシテハ、今ヤ一躍十倍、平均四千三百万圓ニ達シテ居ルノデアリマス、實ニ我內國ノ貿易ヲ合シマスルト、正ニ九千万圓以上ノ多キニ上ッテ居ルノデアリマス、故ニ唯今ニ於キマシテモ、本邦ノ重要ナル貿易港、神戶、橫濱、大阪、門司ニ亞グ所ノ第五番目ノ地位ヲ唯今占メテ居ル有樣デゴザイマス、以上申述ベマシタル如ク、西伯利トノ交通モ益〻頻繁トナリ、朝鮮トノ定規航海又內地各港トノ往來ガ繁クナリ、本港ニ輻湊スル所ノ船ガ俄ニ多キヲ致シテ參リマシタカラ、本港ノ現在ノ有樣デハ、漸クニシテ船舶ヲ四艘繫留スルニ足ル設備ヨリ無イノデアリマス、偶〻航路ノ都合ニ依リマシテ、浦潮ノ定期船三千噸級ノモノガ一艘二艘、二千噸級ノモノガ一艘又朝鮮ヘノ定期船ガ三千噸級ニ近イモノガ一艘、其他北海道通ヒトク、或ハ內地各港ヲ通フ所ノ船、又近頃陸軍御用船杯ノ此敦賀港ニ寄港シマスルトキニハ、實ニ往々シテ舷相摩シ、非常ナ出入ノ自由ヲ缺キ、轉換スルニモ甚ダ困難ナルコトガアルノデアリマス、特ニ風波ノ際ニ避難スル所ノ船舶ガアリマシタナラバ、其混雜ト云ヒ、危險ト云ヒ實ニ名狀スベカラザルモノガアリマス、是ハ畢竟防波堤ノ抱擁面積ガ餘リニ小サクアリマシタ其爲メニ、原因ガアルノデアラウト思ヒマス、又棧橋モ狹隘デアリマスルコトハ、此棧橋ガ浦潮トノ貿易ノミニ使用サレマシテ、內地ノ輸出品ニ限リマシテハ、此棧橋ヲ使用スルコトガ許サレナイコトニナッテ居リマス爲メニ、輸入品ハ總テ棧橋ニテ取扱スルコトガ出來マセヌ、悉ク解ニ依ッテ之ヲ取ラナケレバナラヌ不便ガアルノデアリマス、其解ノ運ブ所ノ場所タル解ノ溜リモ、頗ル又狹隘デアリマシテ、波高キ時ハ解ト解トガ衝突致シマシテ、時ニ損傷スルコトヲ吾ニ往々目擊致ス所デアリマス、又上屋トカ倉庫杯ガ洵ニ不足致シマシテ、輸入貨物ガ棧橋ノ上ニ其他尺寸ノ空地デモアリマスレバ、其處ヘ野曝シニ致シテ積上ゲテ居ルコトガ往々アルノデアリマス、已ムナクシテ荷物ガ輻輳致シマスルトキニハ、此輸入貨物ヲ敦賀市中ノ海岸ノ民家ニ之ヲ收容致シマスルガ、其民家ノ倉庫ヲ使用スル爲メニハ、僅カナル距離荷物ヲ運ブ爲メニ其往還ノ費用ハ一噸ニ付テ四圓七八十錢ヲ要スルノデアリマス、實ニ浦潮ト日本トノ汽船賃ハ一噸ニ付テ僅ニ七圓ナルニ對シテ、敦賀港ヘ參リマシテカラ倉庫ヘ入レ之ヲ往還スルダケニデモ四圓七八十錢ノ運賃ヲ要シマシテ、大ニ荷主ノ爲メニ迷惑ヲ掛ケルコトガ、今日現在其有樣デゴザイマス、又停車場ハ洵ニ狹隘ナルコトハ御承知ノ方モ多數デアリマセウガ、唯ダ山ノ岩ヲ少シク缺キ取ッテ設ケタル彼ノ停車場デアリマシテ、面積ハ僅ニ五千坪、一日ニ僅カ五十貨車ノ操車ヲスルコトヨリハ出來マセヌ、而モ切込線路ガゴザイマセヌ爲メニ、歸リノ汽車ニハ貨物ヲ積込ムコトガ出來マセズシテ、空シク空車ノ爲メニ之ヲ引返サナケレバナラヌト云フコトハ、鐵道省ニ於カレマシテモ、既ニ此事ハ御承知ノコトヽ信ジマス、斯ノ如キ防波堤ノ抱擁面積ガ狹少、突堤或ハ解ノ繫留所ガ狹隘ナルコト、棧橋、上屋、倉庫ノ不足ナルコトハ最近ニ至リマシテ切實ニ感ゼラレマス、愈〻大規模ノ擴張ガ必要ナルコトハ、一度此港ヲ御覽ニナリマシタ方ニ、直チニ御認メ得ラレルコトヽ信ジマス、從來我國ノ文化ハ表日本ノ發展ニノミ偏シマシテ殆ド裏日本

ハ閣却サレテ居リマシタガ、歐洲戰亂ト共ニ、軍事上經濟上ノ裏日本ノ地位モ、又重要ナルコトニ證明サレテ參リマシタ、デアリマスカラ此西伯利ノ秩序恢復ト共ニ、從來ノ世界一週航路ガ恢復サレルコトガ必ズアルニ相違アリマセヌガ、其曉ニ於キマシテハ歐洲市場ニ對シテ、世界一週船ノ要路ニ當リマスル此敦賀港ノ位置ハ我ガ商工業ノ重要地タル大阪、神戸、名古屋、四日市ナドノ大都會ヲ其背面ニ控ヘ、實ニ一衣帶水ノ浦潮トハ僅ニ四百八十海里ニシテ、彼ノ地ニ達スルコトガ出來ル所ノ港デアリマス、陸路直チニ西伯利鐵道ニ依リマシテ、歐洲ノ市場ヘ貨物ヲ到達セシメ得ルコトガ出來マスル爲メニ、最モ經濟的ニ敏速ニ、露國ハ申スニ及バズ、歐羅巴諸國ノ市場ニ現ハレ得ルコト、考ヘマシタナラバ、本港事業ノ將來ハ、實ニ多事多忙ト申サネバナリマセヌ、簡單ニモウ暫クドウゾ（「簡單々々」ト呼フ者アリ）ソレデ朝鮮ノ航路ニ就キマシテハ近來ハ、定期航路ガ出來マシテ以來、僅カナル年月デアリマスケレドモ、約數倍ノ膨脹ヲ致シマシテ、今日デハ定期船一隻デハ其航路ニ充ツルコトガ出來ズシテ、不定期航路ヲ以テ目下補ヒツヽアル形勢デゴザイマス、又他面ニハ軍事上ヨリ見マスルトキハ、本港ノ價値トシテ一日トシテ等閑ニ附シ置クコトハ出來ナイト云フコトハ、當局者ニ於テモ既ニ定見ガアルコト、聽キマスルカラ、此所ニハ申上ゲマセヌ、ケレドモ目下既ニ陸軍省ノ輸送部ハ此地ニ設ケラレテアルコトヲ見マシテモ、徒爾ナラザルコト、存ジマス、今ヤ西伯利ノ形勢ハ殆ト亂麻ノ有樣デハゴザイマスガ、此秩序モ如何ニ變化致シ、秩序ガ如何ニ變化致シマスルトモ、敦賀港トノ地理的關係ハ何等動クモノデハ決シテゴザイマセヌ、故ニ今日ニ於テ擴張ニ著手致シ此西伯利ノ秩序恢復ノ日ガ來マシタナラバ、直チニ利用シ得ラルヽヤウニ、準備ヲ今日ヨリ致シテ置クノガ必要ト存ジマスカラ、此特別議會ニ拘ラズ此案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマスカラ、政府ニ於キマシテハ速ニ調査計畫ヲ立テラレマシテ、來ル通常議會ニ於テ擴張ノ實行案ヲ提出サレンコトヲ希望スル次第デアリマス、長々御靜聽ヲ煩シマシタ恐縮ニ堪ヘマセヌガ、希クバドウゾ滿場ノ御贊成ヲ願ヒマス（拍手起ル）

○岩崎勳君　本案ハ議長指名ヲ以テ九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

（「贊成」ト呼フ者アリ）

○議長（奧繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（奧繁三郎君）　異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十八勝倉鐵道速成ニ關スル建議案、日程第二十九姫津鐵道速成ニ關スル建議案ハ、提出者ガ同一デアリマスカラ一括議題トナス考デアリマス、御異議アリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（奧繁三郎君）　御異議ナシト認メマス、仍テ第二十八勝倉鐵道速成ニ關スル建議案、姫津鐵道速成ニ關スル建議案ヲ一括シテ議題トナシマス、提出者福井三郎君

第二十八　勝倉鐵道速成ニ關スル建議案

（福井三郎君外四名提出）

勝倉鐵道速成ニ關スル建議案

勝倉鐵道速成ニ關スル建議

一岡山縣下勝山町ヨリ鳥取縣下倉吉町ニ至ル鐵道竝ニ政府ハ陰陽聯絡ノ目的ヲ以テ津山ヲ基點トシテ東ニ鳥取線西ニ米子線中央ニ倉吉線ノ三線ヲ比較調査ノ末中央線ヲ以テ三者中ノ最優良線ト認メラレタリ然ルニ近時東西ノ兩線ハ因美線竝伯備線トシテ實現セルモ其ノ優良線ト認メラレタル中央線ノ閣却セラルヽハ關係地方民ノ不幸ナルノミナラス國家ノ爲メニ亦深ク遺憾トスル所ナリ

今ヤ伯備幹線ノ確定ト共ニ津山ヨリ勝山ヲ經テ新見ニ達スル線亦支線トシテ決定セラレ既ニ津山勝山間ノ幾部ハ現ニ起工中ニ在リ故ニ該支線ノ勝山ヨリ分岐シテ既設倉吉驛ニ接續セシムレハ僅ニ三十八哩餘ノ新設ニテ山陰本線ニ聯絡スルヲ得ヘシ而シテ本線ハ軍事用兵上必要ニシテ又伯美兩國ニ於ケル農產及水產物輸出入ノ途ヲ開キ以テ需給ノ圓滑ヲ圖ルヲ得ヘシ仍テ政府ハ速ニ右鐵道ノ敷設ニ著手セラレムコトヲ望ム

右建議ス

第二十九　姫津鐵道速成ニ關スル建議案

（福井三郎君外六名提出）

姫津鐵道速成ニ關スル建議案

姫津鐵道速成ニ關スル建議

一兵庫縣下姫路驛ヨリ岡山縣下津山驛ニ至ル鐵道政府ハ陰陽ニ於ケル交通機關完備ノ必要上及該地方ニ於ケル產業發達ノ必要上近時津山新見間及智頭津山間ニ於ケル輕便鐵道ノ官設ヲ規畫シテ既ニ其ノ工事ニ著手セリ然ルニ津山新見間ノ鐵道ハ東西ニ貫通セサレハ未タ以テ其ノ效果ヲ收ムルニ足ラス智頭津山間ノ鐵道モ營養線ナクムハ是レ亦以テ充分ナリト云フヘカラス卽チ姫津鐵道ヲ敷設シテ始テ陰陽聯絡東西貫通以テ交通機關ノ完備ヲ得タリト謂フヘシ況ヤ本線ハ軍事上最大ノ關係ヲ有スルニ於テオヤ依テ政府ハ速ニ該一道ノ敷設ニ著手セラレムコトヲ望ム

右建議ス

○福井三郎君　唯今議題ニナッテ居リマス建議ノ理由ハ、略、書面ニ盡シテゴザイマス、委シイコトハ委員會ニ於キマシテ辯明ヲ致シマス（「ヒヤ〳〵」ト呼フ者アリ）

○岸崎勳君　本案ヲ一括シテ、日程第二十六永屋茂君外三名提出ノ福山三次間輕便鐵道速成ニ關スル建議案ノ委員ニ、併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長（奧繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

（「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（奧繁三郎君）　異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決定シマシタ、日程第三十流行性感冒症豫防法研究機關設置ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者松下禎二君

第三十　流行性感冒症豫防法研究機關設置ニ關スル建議案（松下禎二君提出）

流行性感冒症豫防法研究機關設置ニ關スル建議案

流行性感冒症豫防法研究機關設置ニ關スル建議

流行性感冒ノ危險ノ度ハ他ノ急性傳染病ヨリ酷タ大ナリ而シテ其ノ病因不明ナルノ結果未タ確實ナル豫防法ナルモノナシ故ニ徹底的豫防法ヲ實施スルノ豫備行爲トシテ速ニ其ノ研究機關ヲ設置セラレムコトヲ望ム

右建議ス

流行性感冒症豫防法研究機關設置ニ關スル建議案理由書

本案提出ノ理由ハ本文ニ詳ナルヲ以テ玆ニ之ヲ贅セス

（松下禎二君登壇、拍手起ル）

○松下禎二君　私ハ流行性感冒症豫防法研究機關設置ニ關シマシテ、建議スル者デアリマス、抑〻流行性感冒症ハ一ニ「インフルエンザ」ト名ケル病氣デアリマシテ、昔カラ有ッタ病氣デアリマスルガ、一昨年ノ夏歐洲ニ猛烈ナル「インフルエンザ」ガ流行シマシテ、瞬々間ニ全世界、全地球表面ニソレガ蔓延致シマシテ、暴威ヲ逞シウシタノデアリマス、我國ニモ一昨年ノ秋頃カラ流行致シマシテ、未ダ曾テ見ザル慘害ヲ逞シウシタノデアリマス、其當時我國ニ於ケル人口ノ二分ノ一ハ、爲ニ病ミ、且ツ其中多數ハ犧牲ニ供セラレタノデアリマス、昨年ノ秋頃復タ流行致シマシテ、今年ノ春ノ頃

マデ多數流行シタノデアリマスルガ、昨年ノ流行ハ一昨年ノ流行ニ比シテ、稍〻緩和デアッテ、其患者數及死亡數ハ一昨年ニ比シテ少イノデハアルケレドモ、先日私ノ願ニ依リマシテ、特ニ內務省ノ當局者ガ御調査下サレマシタル其統計表ニ依ッテ見マスルニ、昨年ノ十一月カラ本年ノ五月ニ至ル流行性感冒症患者數ハ、二百四十万五千六百六十六人ト云フ數デアリマス、サウシテ死亡數ハ十二万七千二百八十二デアル、患者百人ニ對スル死亡率ハ五、二九ト云フ數デアリマス、二百四十万ノ患者ト約十三万ノ死亡者ヲ出スヤウナ流行性感冒デアリマスルカラシテ、慘害ノ甚シキコトハ尼港ニ於ケル「パルチザン」ノ橫暴ヨリモ尚ホ甚シイト云フコトハ分カル（笑聲起ル、拍手スル者アリ）デアリマスカラシテ吾ヒハ此疾病ニ對シマシテハ、極力豫防ノ方法ヲ講ジナクテハナラヌノデアル、然ルニ現今ノ豫防法ナルモノガ——的確ナル豫防法ナルモノハアリマセヌ、隨テ政府當局者ニ於カレテモ非常ニ御迷惑ニナッテ居ルヤウナ模樣ガ見エルノデアリマス、昨年ノ十一月カラ今年ノ五月ニ至ル迄流行性感冒症ノ豫防ノ爲メニ、支出シタル所ノ金ハ僅ニ十八万五百五十九圓デアッテ、患者一人ニ之ヲ割當テマスレバ七錢五厘ニナルノデアリマス、由來此流行性感冒ノ原因ハ未ダ分リマセヌ、但シ往年カラ言ハレタ所ノ流行性感冒ト、一昨年突發シタル流行性感冒トハ、果シテ同種類ノモノデアルヤ否ヤト云フコトサヘモ、マダ醫學上分ラヌノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ一昨年以來、初テ流行シタ所ノ惡性ノ流行性感冒ナルモノハ、今迄人ガ唱ヘテ居ッタ所ノ「パイフエル」氏ノ「インフルエンザ」菌デアルヤ否ヤト云フコトハマダ分リマセヌ、或者ハ「パイフエル」氏ノ「インフルエンザ」菌ガ原因デアルト云フコトヲ申シテ居リマスケレドモ、多クノ學者ハ之ヲ信ジナイノデアリマス、又私モ自己ノ實驗ニ徵シテ其原因ハ「パイフエル」氏ノ「インフルエンザ」菌デナイト云フコトヲ確信スルノデアリマス、同時ニマダ原因ハ分ラナイト云フコトヲ信ジテ居ルモノデアリマス、原因ガ不明ナルガ爲メニ病菌ノ侵入門戶及傳染徑路ト云フモノハ全ク分ラナイ、唯ダ呼吸器カラ入ッテ來ルノデアラウト云フ位ノ想像デアルケレドモ、他方ニ於テハ消化管カラ入ッテ來ル形跡モアリマス、デアリマスカラ何處カラ入ッテ來ルカモ分ラナイ、斯ノ如クシテ病因及傳染徑路、病菌侵入門戶、總テノモノガ不明デアリマスカラ、其豫防法ハ明瞭デナイト云フコトハ、分ッテ居ルノデアリマスカラ、政府當局者ハ豫防法ニ迷ッテ金ヲ出スニモ出サレズ、僅ニ患者一人ニ對シテ七錢五厘ト云フ少額ヲ支出シタノヲバ不思議ニ思フ必要モ無イシ、又之ヲ咎メル必要モ無イト思フノデアリマス、彼ノ虎列剌病ノ如キ原因モ能ク分ッテ居ル、ソレカラ傳染ノ徑路モ又豫防法ノ如キモノモ、詳シク分ッテ居リマスカラシテ、今日ニ於キマシテ遺憾ナク豫防法ヲ施行スルコトガ出來ル、隨テ政府當局者ニ於キマシテモ、要ルダケノ費用ハ出シテ居ラルヽヤウニ見エル、例ヘバ本年ノ六月三十日迄ニ發生シタ所ノ虎列剌患者數ハ、疑似患者百四十人デ、眞正ノ虎列剌患者ガ四百四十九名、保菌者ガ五十五名、總計六百四十四名ト云フ數デアリマスルガ、之ニ對シテ三万七千二百十二圓、卽チ患者一人ニ付テ五十七圓七十八錢二厘ト云フ金ヲ出シテ居ル、加之是等ノ虎列剌症ガ現今ノ如キ狀態ニ於テ流行スルモノトスレバ、每月十一万二百圓ヲ要スルモノトシテ計算サレテ居ル、是等ノ虎列剌症ノ爲メニ吾ヒガ受クル所ノ害ハ「インフルエンザ」ヨリ受クル所ノ害ヨリモ、非常ニ少イノデアリマス、然ルニ虎列剌症ヲ豫防スル爲メニハ多額ノ金ヲ支出シ「インフルエンザ」ノ爲メニハ極メテ少額ヲ支出スルト云フノハ、卽チ其豫防法ガ分ラナイ爲メデアルノデアリマス、或ル府縣ニ於キマシテハ、昨年カラ本年ニ掛ケテ「インフルエンザ」ニ對シテ豫防注射ヲ行ッタ所ガアル、サウシテ其等ノ人人ノ發表シタル成績ニ依リマスルニ、皆著明ナル效力ガアルト云フコトニナッテ居ル、然リト雖モ吾ヒハ學理上之ヲ信ジマセヌ、ノミナラズ、彼等ノ示シタ所ノ統計ハ、統計ノ採リ方ガ間違ッテ居ルノデアリマス、要スルニ豫防注射ハ非常ナ效ガアルト云フ論者ノ說ハ誤ッテ居ル、尚ホ之ニ關シテ委シク申上ゲタイノデアリマスルケレドモ、餘リ學問的ニ或ハ專門的ニ亙リマスカラ省イテ置キマス、唯ダ豫防注射ハ效ガ無イ又一昨年來「マスク」ヲ掛ケルヤウニ奬勵シタ所ガアル、是ハ或程度迄ハ豫防ノ效ガアルケレドモ、未ダ絕對的ニ豫防スルコトハ出來ナイノデアリマス、其絕對的ニ豫防シ得ナイ理由ニ就キマシテモ、餘リ專門的學術ニ亙リマスカラ、サウ云フ所ハ省イテ置キマス、斯ノ如ク致シマシテ「インフルエンザ」ニ對スル豫防法ト云フモノハ全然無イノデアリマス、勿論本年モ來年モ亦其次ノ年モ、反覆「インフルエンザ」ノ流行スルコトハ、私ガ特ニ申上グルモナイ事デアル、斯ノ如ク危險ナル疾病ガ年々歲々我同胞ヲ襲フト云フノハ、實ニ心ヲ寒ウスベキ事デアリマスカラ、吾ヒハ此際徹底的ニ豫防法ヲ行ハナケレバナラヌ、併ナガラ未ダ學問上、學理ノ上ニ立脚シタル所ノ豫防法ナルモノハアリマセヌ、デアリマスルカラ徹底的豫防法ノ實施スル豫備行爲ト致シマシテ、如何ニセバ之ヲ豫防シ得ルカト云フ事ヲ研究シタイノデアリマス、隨テ研究機關ヲ設ケタイ、研究機關ヲ設ケル必要ガアルト思フノデアリマス、此事ハ我ガ同胞及人類界ニ於ケル幸福ヲ齎スモノデアリマスカラ、政黨政派ノ別無ク御賛成アランコトヲ偏ニ御願スル次第デアリマス（拍手起ル）

○岩崎勳君　本案ハ議長指名ヲ以テ九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長（奥繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長（奥繁三郎君）　御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程三十一、小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス——提出者高田耘平君

第三十一　小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案（高田耘平外八名提出）

小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案

小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議

政府ハ大正九年度ヨリ小學校教員俸給トシテ更ニ相當金額ヲ增加支出スルノ方法ヲ講セラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔高田耘平君登壇、拍手起ル〕

○高田耘平君　私ハ唯今議題ニナリマシタル小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案ノ理由ヲ說明シヤウト思ヒマス、近數年間ニ於キマシテ、我ガ帝國ハ物質的經濟的ニ非常ニ進步シタコトハ明カデゴザイマス、併ナガラ精神的ニ果シテ向上シタヤト否ヤト云フコトハ、私ハ深キ疑問ヲ有ツノデゴザイマス、殊ニ國民精神ノ基礎タル國民敎育ノソレガ、近數年間ニ於テ如何ニナリシカト云フコトヲ申セバ、私カラ申シマスレバ、國民敎育ハ近數年間ニ於テ、確ニ或ル意味ニ於テ退步シタル傾向ガアルト云フコトヲ申スノデゴザイマス、殊ニ小學校敎員ノ素質ノ幾分低下シタルコトハ、何人モ看做シ得ルコトデゴザイマス、而シテ何人ガ斯ノ如キ結果ヲ來サシメタト云フ此責任問題ニ就テハ、茲ニ論斷スル場合デゴザイマセヌカラ、私申上ゲマセヌ、唯ダ併シ如何ニシテ此國民敎育ヲ改善シ、而シテ小學校敎員ノ素質ヲ向上スルカト云フコトニ就キマシテハ、國家ハ須ラク或ル程度ノ犧牲ヲ拂ハナケレバナラヌト確信スルノデゴザイマス、此救濟ノ一端ト致シマシテ、私ハ小學校敎員ニ對スル國庫負擔金ノ增加ヲ國家ニ要求スルモノデゴザイマス、此法案ハ御承知ノ通リ第三十九議會ニ於テ各黨多少ノ形式ハ違ヒマシタケレドモ、其意味ニ於テハ同一ナル意味ヲ以テ、寺內內閣時代ニ於テ建議案ヲ提出シ、其建議案ヲ容レマシテ、寺內內閣ガ第四十議會ニ提案ヲシタ所ノモノデゴ

ザイマス、而シテ大正七年度ヨリ施行サレテモ、其金額ハ一千万圓デアザイマス、一千万圓デアルケレドモ、此一千万圓ハ今尚其儘繼續シテ居リマシテ、之ヲ或ル程度マデ國庫ノ財政ノ許ス範圍ニ於テ、成ベク多ク增額ヲ望ムト云フコトガ吾々ノ意見デゴザイマス、此法案提出ノ理由ハ、其當時ノ記錄ヲ見マスルト、斯ウ云フコトニナッテ居リマス、建議案ヲ見マシテモ、或ハ建議案ノ理由ヲ見マシテモ、法案提出ノ理由ヲ見ルト、斯ウ云フコトニナッテ居ル、第一ハ教育ノ改善、特ニ小學校教員ノ待遇ヲ改善スルト云フコト、第二ハ市町村ノ負擔ヲ輕減スルト云フコト、第三ハ是ハ其當時西村君ノ建議案提出ノ理由ノ中ニアリマシタ、教育ノ費用ノ爲メニ自治體ノ財政ガ壓迫ヲ蒙ッテ、教育費ガ增加スルト反對ニ、他ノ衞生、勸業、土木等町村當然ノ經費ハ其壓迫ヲ蒙ッテ、施設スルコトガ出來ナイカラ、之ヲ救濟スルト云フコトモ、此法案提出ノ一ノ理由ニナッテ居リマス、モウ一ツノ理由ハ、國民教育ハ帝國全般ニ亙ッテ之ヲ平ラニ行ハナケレバナラヌ、所ガ其大部分ヲ市町村ノ力ニ據ルト云フコトデハ、市町村ニ依ッテ非常ニ其力ガ違フ、例ヘバ就學兒童ノ數ガ同ジ千人アル町村デモ、町村ニ依ッテ其町村ノ實力ガ違フカラシテ、隨テ教育ヲ圓滿ニ公平ニ行フコトガ出來ナイカラ、或ベク多ク國庫ヨリ金ヲ出シテ、此不公平ナル町村ノ負擔ヲ救濟致シタイ、斯ウ云フコトモ其理由ノ中ニ加ッテ居ッタヤウデゴザイマス、此四ツノ理由ガ此法案成立ノ原因デゴザイマス、故ニ此四ツノ理由ガ除却致サレバ、吾々ハ建議案ヲ出ス理由ハ更ニ無イノデアリマス、所ガ私共ガ見マスル所デハ益々此四ツノ理由ガ除去サレルドコロデハナイ、益々多クナルノデアリマス、第一ハ教育ノ改善、先以テ主トシテ小學校教員ノ待遇ノ問題、是ガドウナッテ居ルカ申シマスレバ、大正九年ノ二月一日ノ現在ノ調ニ依レバ、本科正教員、專科正教員、准教員、通ジテ平均ノ一箇月ノ俸給ガ僅カ四十六圓デゴザイマス、是ハ最近ノ調ト思ヒマス、之ガ果シテ國民教育ヲ扱フ教育者ノ待遇トシテ、相當ナルモノナリヤ否ヤ、私ノ聞ク所ニ依リマスレバ、判任官階級ノ官吏ハ、其下級ニ屬スル者ハ、俸給令改正ニ依ッテ殆ンド十割ノ增加ニナルト云フコトヲ聞及ンデ居ルノデゴザイマス、故ニ少ナクトモソレ迄ニハシナケレバナラヌ、此四十六圓ト云フモノハ七割增ニ於テノ計數デゴザイマス、故ニ之ヲ十割增ニスルト云フコトハ、當然起ルベキ問題デアル、電車ノ車掌ガ幾ラ取ル、其他ノ勞働者ガ幾ラ取ル、通信技手ガ幾ラ取ル、是等ト比較致シマスルト、國民教育ヲ扱フ小學校教員ニ、今日ノ物價ニ於テ僅カ四十六圓デアルト云フコトハ、何トカシテ國家ハ之ニ向ッテ救濟ノ方法ヲ講ジナケレバナラヌモノデアルト云フコトヲ私ハ固ク信ジマス（拍手起ル）然ラバ之ヲ救濟スルニ如何ニセバ宜シイカト云フ事ガ起ル問題デアル、即チ教員ノ待遇ヲ改善スル爲メニハ、何レノ方面ヨリシテ今日以上ノ金ヲ出ス必要ガアル、所ガ市町村ノ狀態ハドウデアルカト云フコトヲ調ベテ見ルト、市町村立小學校費ノ總額ガ、大正六年度ニ於テハ六千六百万圓デアリマシタモノガ、大正九年度ノ豫算ニ於テハ一億五千餘万圓ニナッテ居ル、而シテ其中小學校教員ノ俸給ガ、大正六年度ニ三千七百万圓ナリシモノガ、現在ニ於テハ九千四百万圓ニナッテ居ル、斯ウ云フ風ニナッテ居ル、併ナガラ是デモ吾々ハ教員ニ對スル待遇ガ滿足デアルト云フコトハ出來ナイノデアル、ソコデモウ一ツ見逃スベカラザル事實ハ、成程小學校教員ノミノ優遇ニ就キマシテハ、國家ガ種々ノ方法ヲ以テ市町村ニ向ッテ俸給ノ支出ヲ迫ル途ガアル、故ニ大正八年度中ニ於テモ、二割五分增、四割增、七割增ト云フコトニ漸次增サレタコトハ諸君御承知ノ通リデアリマスケレドモ、併ナガラ此教育費ノ增加ノ割合ト同時ニ、他ノ市町村ノ仕事、否ナ他ノ市町村ノ當然ノ仕事ノ勸業、土木、衞生等ノ仕事ガ、此割合ヲ以テ經費ガ增加サレ施設サレテアルヤ否ヤト云フコトヲ仔細ニ甄別スルト、實ハ私此問題ニ付テ大正八年度ノ豫算ノ全體ヲ知リタク、內務當局者ニ其大正八年度ノ市町村ノ豫算額ノ提示ヲ求メマシタケレドモ、昨日ノ所マデハ未ダ完全ナル統計ガ無イト云フコトデ、遺憾ナガラ確定的ノ事ハ申上ゲ兼ネマスルケレドモ、併ナガラ大體ニ於キマシテ、教育費ハ成程三倍近クナッタガ、土木費、勸業費、衞生費ト云フモノハ、此割合ニ各市町村共決シテ增サレザリシト云フコトハ推定的ニ論斷シテ差支ナイ事實デアラウト思フノデゴザイマス、卽チ教員給及小學校教育費ニ關スルコトハ、國家ノ力ヲ以テ壓迫シテ、市町村ニ强イタ結果ハ現狀ニナリマシタケレドモ、市町村ノ當然經營施設スベキ勸業、土木、衞生等ノ仕事ハ、此教育費ノ增加ノ爲メニ壓迫サレテ、當然ノ仕事ガ大體ニ於テ發達向上シ得ラレザル狀況ニ居ルト云フコトハ、私ドウシテモ否定シ得ベカラザル事實デアラウト思フノデゴザイマス、第四ハ卽チ市町村ノ實力ノ違フコトニ依テ生ズル國民教育ノ不公平ナル問題、此問題モ矢張唯今ノ自治體ノ經費ノ問題ト同樣デゴザイマス、是ハドウナルカト申シマスレバ、詰リ町村ノ經費ノ增加ニ伴ヒマシテ益々負擔ガ困難ニナル、負擔ノ困難ナルニ從ッテ、實力ノ有ル町村ト、實力ノ無イ町村トノ間ニ、教育上ニ於テ、施設ニ於テ不公平ナル結果ヲ生ズルト云フコトハ、是亦見逃スベカラザル所ノ狀況デゴザイマス、斯樣ナ判斷ヨリ申シマスレバ、此教育ノ改善、市町村費ノ輕減、市町村ノ財政ノ問題等ヨリ言ヒマシテモ、國家ガ今日以上ニ金ヲ出シテ、而シテ小學校教育ノ改善ヲ圖ルト云フコトハ、最モ急務デアルト思フノデゴザイマス、但シ是ガ救濟ノ方法ト致シマシテ、政府ハ第四十一議會ニ於キマシテ、地方稅制限擴張ニ關スル法律案ヲ出シテ、地租割、所得稅割、營業稅割ニ向ッテ、或ル程度ノ增額ヲ試ミタノデゴザイマス、之ヲ以テ政府ハ救濟セント欲シタノデゴザイマセウケレドモ、併ナガラソレハ如何ニモ不徹底デアル、最初大正七年度マデノ全國町村費ノ增額中、地租割ハ一千三百万圓デアッタ、ソレデ地方稅制限擴張ニ依ッテドレダケノ增收ノ得タカト云ヘバ、僅カ七百万圓許リデアル、卽チ千三百万圓ガ二千万圓ニナッタ、斯ウ云フ事デハアルケレドモ、一方ニ於テ小學校教育費ノ增加ハ二倍半ニナリ、而シテ其基礎ガ多イ、殆ド其當時ニ於テ六七千万圓ノモノデアッタカラシテ、此モノガ二三倍ニナル、一方營業稅割、所得稅割及地租割ハ如何ニモ基礎ガ少イ、此モノヲ五割或ハ十割增シタ所ガ、其金額ニ於テ非常ニ增加シテ居ル所ノ教育費及其他ノ不足ヲ補フト云フコトハ、當然出來ナイト云フコトハ、是亦明カナ事實デアル、其結果現レタモノハ何デアルカト云フト、吾々ガ最モ惡稅ト見ルベキ所ノ戶數割ノ急激ナル膨脹デゴザイマス、何故ニ私ガ左樣ナ事ヲ言フカト云ヘバ、大正五年度ニ於キマシテ全國ノ町村ノ——市ハ除キマス——町村ノ戶數割ノ總額六千二百万圓デアッタ、所ガ大正八年度ノ最初ノ豫算ニ於テ既ニ一億圓ニ達シテ居ル、六割增シテ居ル、故ニ大正八年度中大體二割五分增ト稱シ、四割增ト稱シ、七割增ト稱シ、漸時小學校教員ニ對スル待遇ノ經費ヲ增サレル爲メニ、恐ラク今日ニ至ッテハ一億數千万圓ノ多キニ戶數割ノ徵收額ガ達シテ居ルト、私ハ確定シ得ルノデゴザイマス、斯樣ニ吾々ガ最モ惡稅ト看做スベキ戶數割ガ殆ド三倍以上ニモ增加シタル狀況ニアルト云フコトハ、是亦町村ノ經營上看逃スベカラザル事實デゴザイマス、故ニ一方ニ於テハ歲入ノ上ニ非常ナル問題ヲ來タシ、サリトテ小學校教員ノ改善ニ就テハ甚ダ徹底シタル結果ヲ得ナイノデゴザイマス、斯カル場合ニ於キマシテハ、政府ハ須ク此法律制定ノ本旨ニ基イテ、有ユル方法ヲ採ッテ、出來ルダケノ方法ヲ採ッテ、此一千万圓以上ニ成ルベク多額ノ金額ヲ支出ヲシテ、此問題ヲ救濟スルト云フコトガ、當然ノ責務デアラウト信ズルノデゴザイマス、此意味ニ於テ私ハ此建議案ヲ提出致シマシタノデゴザイマス、但シ私少シク附加ヘテ置キタイコトハ、此建議案ノ意味ハ第四十一議會ニ於テ我黨ヨリ出シマシタル教育振興ニ關スル建議案ノ一節トシテ提出致シマシタノデゴザイマス、所ガ其當時其建議案ハ遺憾ナガラ卽決否決サレマシタ、隨テ此國庫

負擔額增加ノ問題モ否決ニナッタノデゴザイマス、其當時ニ於テ岩崎君ガ如何ナル意味ヲ以テ此問題ヲ否決シタカト、其理由ヲ調ベテ見ルト、總理大臣ノ話ヲ聞ケバ、此問題ハ今政府ガ考慮中ニアル問題デアルカラ、敢テ建議案ヲ出ス必要ガナイト申シマシタノデゴザイマス、ソレガ理由ニナッテ否決サレマシタ、而シテ其當時原總理大臣ハ此席上ニ於テ斯ウ云フコトヲ以テ否決ノ意味ヲ裏書シタ、高等教育機關ノ擴張ハ、中學校ヲ卒業シタ生徒ガ入ルベキ場所ガナイカラ、必要ガアルカラ之ヲ擴張シタノデアル、國民教育ニ於テハ容ルベキ場所ガナイヤウナ所ハ如何ナル山間僻地ニモナイ、故ニ先以テ國民教育ハ現狀ノ儘デ澤山デアルカラ先以テ宜シイト、斯ウ言ッタヤウニ聞キ及ンデ居リマス（「ソンナコトハナイ」ト呼フ者アリ）サウアリマス、爲ゾ知ラン、成程高等教育機關ハ其當時確ニ――今尚容ルヽルニ足ル校舍ガアリマセヌケレドモ、其當時ニ於キマシテハ、物價ハ既ニ騰貴ニ傾キマシタ、而シテ小學校教員ノ多數ハ衣食ニ苦ンデ居ル時代デアル、成程生徒ヲ收容スベキ校舍ハアリマシタケレドモ、此生徒ヲ教育スベキ完全ナル小學校教員ハ皆不平ヲ以テ、而シテ優良ナル者ハ漸次他ノ業ニ轉ゼントシテ居ル時代デアルト云フコトハ、御承知ガナカッタノデゴザイマス、更ニ第四十二議會ノ豫算委員會ニ於キマシテ、我黨ノ加藤政之助君ヨリ中橋文部大臣ニ、政府ハ大正八年度ニ於テ國庫負擔金增加ノ意思ノルヤ如何ト云フ質問ニ對シテ、中橋文部大臣答ヘテ曰ク、今ハ町村ノ力ガ富ンデ居ル、米モ高イ、繭モ高イ、故ニ當ル先以テ增ス必要ガナイ、但シ米ガ下リ繭ガ賣レナクナッタ場合ニ於テハ、何トカ政府ハスル見込デアルト、斯ウ云フ御答辯デアリマシタ、成程一國ノ文部大臣トシテ、唯ダ學務ソレ自身ニ就テノ御答ナラバ結構デ御座ッタカ知リマセウガ、其當時ニ於テ既ニ文部大臣ノ言フ通リ、成程小學校教員ニ對シテハ、臨時手當七割ダケハ各市町村ニ於テ認ムテ居ッタケレドモ、前申上ゲマス通リ教育費ソレ以外ノ衞生、土木、勸業費等ノ問題ハ、全然此小學校教員給增加ノ爲メニ壓迫サレテ、寧ロ退歩ノ傾向ニアッタト云フ事實ヲ御承知ナカッタコトヲ、私ハ國家ノ爲メニ遺憾トスルノデアリマス（拍手）文部大臣トシテハソレデ宜シウゴザイマセウ、併ナガラ苟モ連帶責任ヲ負フ國務大臣ノ言動トシテ、私ハ第四十二議會ニ於ケル豫算總會ニ於ケル中橋文部大臣ノ言明ヲ遺憾トスルト云フコトヲ、茲ニ明言シテ置キマス（「簡單」ト呼フ者アリ）簡單デス、是デ簡單ナノデス、兎モ角モデス、兎モ角モ政友會ノ諸君ハ、第四十一議會ニ於テ、吾ミガ本案ト同一ノ意味ニ於テ提出シタ時ニ於テハ之ヲ否決ナサレ、其當時考慮中デアルト云フコトヲ總理大臣ガ明言シ、其明言ニ依ッテ岩崎君ハソレヲ否決ノ理由トシタ問題デアリマス、是等ノ事情ヨリ申シマスレバ、或ハ今回モ否決ニナルカモ知レマセヌ、兎ニ角ソレハ諸君ノ御隨意デアッテモ、私ハ前申上ゲマシタ通リ、重要ナル意義ガ此國民教育ノ問題ノ中ニ含ンデ居リマス（拍手）如何ニシマシテモ今日ノ市町村ニ向ッテ、今日以上ノ要求ヲ試ミルト云フコトハ無理デゴザイマス、況ヤ文部大臣ノ言フ通リ、米モ大分安クナリマシタノ、繭モ賣レナクナリマシタ、既ニ今年ノ春ト違ヒマシタ、故ニ文部大臣ガ彼ノ答辯ノ當時カラ言ヘバ、近頃ハ最早二千万圓ヤ三千万圓ノ金ヲ更ニ增加スベク提案スベキ義務ハ文部大臣ニ在ルヤウニモ見受ケラレマス、（「アーアー」ト呼フ者アリ）大分欠仲ガ出ルヤウデゴザイマシテ、御耳障リト思ヒマスカラ、是レ以上ハ申シマセヌ、要スルニ私ハ本案ヲ是非共諸君ノ御同意ヲ得マシテ、之ヲ通過セシメテ、通過セシムルノミナリズ、成ルベク政府ヲシテ、此意見ヲ容レテ、直チニ追加豫算ヲ提出セシメンコトニ御努力ヲ願ヒタイト云フコトヲ諸君ニ申上ゲテ此壇ヲ降ルノデゴザイマス（拍手起ル）

○岩崎勳君　本案ハ政府提出帝國大學特別會計法中改正法律案外二件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長（奥繁三郎君）　岩崎君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

（「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（奥繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決定サレマシタ

○岩崎勳君　議事日程追加ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、卽チ茲ニ議員永井柳太郎君懲罰事犯ノ件ヲ議題トシ、委員長ノ報告ヲ求メ、且ツ其審議ヲ進メランコトヲ望ミマス

（「贊成々々」ト呼フ者アリ）

○議長（奥繁三郎君）　岩崎君ノ議事日程ノ追加ノ緊急動議ニハ、異議アリマセヌカ

（「異議ナシ」「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（奥繁三郎君）　異議ナイト認メマス、仍テ日程ハ追加致サレマシタ、永井柳太郎君懲罰事犯ノ件ヲ議題ト致シマス、懲罰事犯ノ議事ハ衆議院規則第百九十七條ニ依リマシテ、祕密會議デアリマス、仍テ傍聽人ノ退場ヲ命ジマス、其間暫時休憩致シマス

午後四時十四分休憩

永井柳太郎君懲罰事犯ノ件

〔午後四時四十一分祕密會ニ入ル〕

〔午後六時三十八分祕密會ヲ終ル〕

午後六時三十九分開議

○議長（奥繁三郎君）　永井柳太郎君ノ入場ヲ許シマス――祕密會ノ結果ヲ報告致シマス、祕密會ニ於テハ、永井柳太郎君懲罰事犯ノ件ヲ議決致シマシタ、永井柳太郎君ニ對シテ、議院法第九十六條第一項第三號ニ依リ、五日間ノ出席停止ヲ命ジマス、是デ本日ノ議事ハ了リマシタガ、明日ハ豫算案其他各種ノ議案ヲ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニテ散會

午後六時四十二分散會